

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

令和元年度  
自己評価報告書

令和2年5月7日

学校法人国際学園 九州医療スポーツ専門学校

# 目 次

1. 学校の理念・教育目標 .....	1
2. 本年度の重点目標と取組方法およびその結果 .....	2
基準1 教育理念・目的・育成人材像【平均評定：4. 0】 .....	3
1-1 理念・目的・育成人材像 .....	3
基準2 学校運営【平均評定：3. 4】 .....	5
2-2 運営方針 .....	6
2-3 事業計画 .....	7
2-4 運営組織 .....	8
2-5 人事・給与制度 .....	9
2-6 意思決定システム .....	10
2-7 情報システム .....	11
基準3 教育活動【平均評定：3. 2】 .....	12
3-8 目標の設定 .....	12
3-9 教育方法・評価等 .....	24
3-10 成績評価・単位認定等 .....	65
3-11 資格・免許の取得の指導 .....	76
3-12 教員・教員組織 .....	86
基準4 学修成果【平均評定：3. 1】 .....	118
4-13 就職率 .....	118
4-14 資格・免許の取得率 .....	126
4-15 卒業生の社会的評価 .....	134
基準5 学生支援【平均評定：3. 1】 .....	140
5-16 就職等進路 .....	140

5-17	中途退学への対応	151
5-18	学生相談	159
5-19	学生生活	169
5-20	保護者との連携	171
5-21	卒業生・社会人	172
基準6 教育環境【平均評定：3.1】		174
6-22	施設・設備等	174
6-23	学外実習・インターンシップ等	176
6-24	防災・安全管理	189
基準7 学生の募集と受入れ【平均評定：3.5】		191
7-25	学生募集活動	191
7-26	入学選考	193
7-27	学納金	194
基準8 財務【平均評定：3.0】		195
8-28	財務基盤	195
8-29	予算・収支計画	197
8-30	監査	198
8-31	財務情報の公開	199
基準9 法令等の遵守【平均評定：3.6】		200
9-32	関係法令、設置基準等の遵守	200
9-33	個人情報保護	201
9-34	学校評価	202
9-35	教育情報の公開	204
基準10 社会貢献・地域貢献【平均評定：3.3】		204

### 「評定」の意味

- 4：適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3：ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2：対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
- 1：全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

記載責任者職・氏名は、令和元年度のものです。

## 1. 学校の理念・教育目標

教育理念	教育目標
<p>「土魂医才」(しこんいさい)</p> <p>菅原道真の「和魂漢才」から渋沢栄一の「土魂商才」へ、そしてこれからの時代に求められるのは「土魂医才」である。つまり、豊かな教養とプロフェッショナルな医療人としての技術を持ち、誇りを持って国民の真の健康に寄与できる人材の育成</p> <p>に寄与し、社会に貢献できる人材の育成を目指す。</p>	<p>「挨拶」「感謝」「感動」「責任」を重んじる教育の推進により、豊かな教養とプロフェッショナルな医療人としての技術を持ち、誇りを持って国民の真の健康に寄与できる人材の育成</p> <p>1 人格の完成</p> <p>(1) 他者への思いやりと自分の可能性最大に伸長しようとする謙虚さと誠実さを涵養する。</p> <p>(2) 校内外のさまざまな場面において、自らの素養を高めようとする向上心を育む。</p> <p>2 施術者・トレーナーとしての資質能力の育成</p> <p>(1) 入学者全員の卒業と資格試験合格を達成する。</p> <p>(2) 主体的に臨床的な基礎研究に取り組む場の提供と、知識・技能の定着を図る。</p> <p>(3) 地域との連携を深め、社会に貢献できる人材を育成する。</p>

記載責任者 職・氏名

校 長 中 村 潤

## 2. 本年度の重点目標と取組方法およびその結果

令和元年度重点目標	達成計画・取組方法とその結果
1 より良い就学環境の確保 2 授業改善のための授業研究会の実施 3 資格試験全員合格に向けた組織的対策の実施 4 卒業後の進路指導の一環としての企業説明会の改善実施 5 地域と連携した各種イベント等への積極的参加	1 各学科において経年劣化した器具備品類を入れ替えて、教育環境の充実を図った。馬鹿校舎においては LED 照明に切り替えた。 2 主体的な授業研究会を複数の学科が実施し、学科内外の多くの教員が参加した。それぞれの授業の現状と課題を共有して改善の方向性が明確になった。 3 資格試験に向かって、各学科ともに組織的な対策を講じた。試験の傾向を分析し、対策を計画的に進められた。 4 キャリアサポートセンターを中心とした企業説明会の企画・運営が行われ、学生の積極的参加につながった。 5 北九州市をはじめとする各団体との連携により、各種イベントへの教員・学生の積極的参加と協力体制が構築された。

記載責任者 職・氏名

校長 中村潤

## 基準1 教育理念・目的・育成人材像【平均評定：4.0】

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育理念と目標、ビジョンに関して、常日頃から目にする、耳にするなど、教職員も学生も意識するような環境づくりを行っている。課題としてあげるならば、それをどう行動に結びつけ、達成していくこうとするのかを導きだしていくことではないかと考える。	具体的な行動まで落とし込み、全員が一丸となって取り組む環境づくりを行うこと。	なし。

記載責任者 職・氏名

校長 中村潤

### 1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか。	理念に沿った目的・育成人材像になっているか。	4	行事等で常に理念、目標の伝達を行っている。	なし	なし	理念等を記した文書 学校ホームページ 学則、学校案内 学生便覧
	理念等は文書化するなど明確に定めているか。		教室掲示などに努めている。	なし	なし	
	理念等において専門分野の特性は明確になっているか。		本校の専門である医療の特性について明確に定めている。	なし	なし	
	理念等に応じた課程(学科)を設置しているか。		設置している。	なし	なし	
	理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか。		各学科目標を掲げ取り組んでいる。	なし	なし	

	理念等を学生・保護者、関連業界等に周知しているか。		式典等でも理念の公表、広報活動においても理念の伝達に努めている。	なし	なし	
	理念等の浸透度を確認しているか。		確認している	なし	なし	
	理念等を社会等の要請に的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか。		行っている	なし	なし	

1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか。	課程（学科）毎に関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか。 教育課程、授業計画（シラバス）等の策定において関連業界等からの協力を得ているか。 専任・兼任（非常勤）にかかわらず教員採用において関連業界等からの協力を得ているか。 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか。 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか。	4	明確にしている	なし	なし	学生便覧 シラバス
			協力を得ている	なし	なし	
			協力を得ている	なし	なし	
			協力を得ている	なし	なし	
			協力を得ている	なし	なし	
			協力を得ている	なし	なし	

1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか。	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか。	4	取り組んでいる	なし	なし	学生便覧
-------------------------------------	----------------------------	---	---------	----	----	------

んでいるか。	特色ある職業実践教育に取組んでいるか。		取り組んでいる	なし	なし	
--------	---------------------	--	---------	----	----	--

1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか。	中期的(3~5年程度)視点で、学校の将来構想を定めているか。	4	定めている	なし	なし	
	学校の将来構想を教職員に周知しているか。		周知している	なし	なし	
	学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか。		周知している	周知しきれているかは不明	保護者会や学園祭などを活用し、周知していく	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念やビジョンを策定し、教職員だけでなく学生に共有できるように、イベントや行事でも常に伝達することを心がけ、一体となって達成に向かっていくスタンスでおこなっている。短期目標だけでなく中長期的な視点で見据え、今後どのように発展していくかを多く検討しているところである。	

記載責任者 職・氏名

校長 中村潤

## 基準2 学校運営【平均評定：3.4】

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎朝の職員朝礼による情報の共有、報連相の徹底など、毎日を滞りなく運営していくための施策、また、月に二回行う管理者会議及び教職員会議による情報の共有などを通し、非常事態がないように体制を整えている。また、日報制度により、日々の学生の様	運営において重要なのは、質はもちろん、スピードが大切である。スピードがあがる仕組みを作り、情報がもっと早く、正確に回るような仕組みづくりをおこなっていく。	

子や教職員の様子を各部署の長がとりまとめ、校長が吸い上げるような仕組みとしている。		
---	--	--

記載責任者 職・氏名

校長 中村潤

## 2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか。	運営方針を文書化するなど明確に定めているか。	4	定めている	なし	なし	教育理念 行動指針
	運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか。		定めている	なし	なし	
	運営方針を教職員等に周知しているか。		周知している	なし	なし	
	運営方針の組織内の浸透度を確認しているか。		確認している	なし	なし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の教育理念だけでなく、法人の理念も周知し、理念に沿った行動ができるように努めている。	

記載責任者 職・氏名

校長 中村潤

## 2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか。	中期計画(3~5年程度)を定めているか。	4	定めている	なし	なし	組織図
	単年度の事業計画を定めているか。		定めている	なし	なし	
	事業計画に予算、事業目標等を明示しているか。		明示している	なし	なし	
	事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか。		明確にしている	なし	なし	
	事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか。		明確にしている	なし	なし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、事業計画を見直し、策定している。また、予算に関しても常に3年先まで見据えた予算書を作成している。	

記載責任者 職・氏名	校長 中村潤
------------	--------

## 2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか。	理事会、評議員会は、寄附行為に基づき適切に開催しているか。	4	定期的に開催している	なし	なし	理事会評議員会議事録 寄附行為認可申請書の控え
	理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか。		適切に作成している	なし	なし	
	寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか。		改正している	なし	なし	
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか。	学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか。	4	整備している	なし	なし	毎年度更新の組織図表 各部各課及び教職員会議の議事録
	現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか。		整備している	なし	なし	
	各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか。		明確にしている	なし	なし	
	会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか。		明確にしている	なし	なし	
	会議、委員会等の議事録(記録)は、開催毎に作成しているか。		作成している	なし	なし	
	組織運営のための規則・規程等を整備しているか。		整備している	なし	なし	
	規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか。		改正している	なし	なし	
	学校の組織運営に携わ		行っている	なし	なし	

る事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか。				
------------------------------	--	--	--	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
規程や規則等は作成しており、なおかつ更新していくようにしている。また、理事会・評議員会等も定期的に開催しており、滞りなく行っている。	

記載責任者 職・氏名	事務局長 西田真紀
------------	-----------

## 2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか。	採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか。	3	適切に運用している	なし	なし	人事評価シート 就業規則
	適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか。		確保している	なし	なし	
	給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか。		運用している	なし	なし	
	昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか。		適切に運用している	なし	なし	
	人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか。		運用している	なし	人事考課制度に関して再検討し、現在にふさわしいものを制定する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事考課に関して、毎年より良いものを更新している。	

記載責任者 職・氏名

事務局長 西田真紀

## 2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか。	教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備しているか。	3	整備している。	特になし	特になし	組織図 業務分掌
	意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか。		明確となっている。	特になし	特になし	
	意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか。		明確となっている。	更新していく必要がある	更新	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教務および財務にかかる意思決定システムは構築されている	

記載責任者 職・氏名

事務局長 西田真紀

## 2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか。	2	情報管理システムを構築してリアルタイムに管理を行っている。	特になし	特になし	
	情報システムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか。		情報管理システムによる管理を行っている。	特になし	特になし	
	学生指導において、適切に学生情報管理システムを活用しているか。		各学科において紙媒体による記録を採用している。	特に問題は生じていない。	業務に支障を来さない限り、現行制度を継続する。	
	データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか。		各校舎を VPN 接続し、サーバールーム内に大型ファイルサーバーを設置した上で情報の一括管理を行っている。	ファイルサーバーのバックアップ増加対策と保存期間の選定	クラウド等のVPS サーバーをバックアップサーバーとし、天変地異や大災害発生時でもデータの素早い復旧を行う	
	システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っていいるか。		教職員用クライアントのカード認証によるログイン。資産管理システムによる操作ログを管理。ファイアウォールによりアクセス制限と IDS、IPS の実施。学生向け Free-Spot とは VLAN を使用。	各管理サーバーのアップデート体制とログの保管期間の調整。	サーバーの管理一部をベンダーへ依頼。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
構内クライアント使用におけるセキュリティポリシーの見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員のパスワード管理を廃止し、すべてカード認証へ移行を行う。</li> <li>各管理系サーバーは vmware を使用し HA 構成としており障害発生時でも運用を続けられる体制を整えている。</li> <li>各フロア LAN 配線は二重化を行い、安定性・高速化を実現している。</li> <li>各フロア・すべての教室に無線 LAN アクセスポイント・LAN コンセントを設置し、学内インフラへの柔軟なアクセス体制を整えている。</li> </ul>

記載責任者 職・氏名

IT 広報課 大重勝己

### 基準3 教育活動【平均評定：3.2】

#### 3-8 目標の設定

##### 3-8-1

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。 職業教育に関する方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	3	定期的に開催されているが、文書化されていない。	文書化が必要	文書化が必要	教育課程編成実施規程ほか
	職業教育に関する方針を定めているか。		明確に定められていない。	明確化が必要	明確化が必要	
			記載責任者 職・氏名		学科長補佐 社由洋	

#### スポーツ柔整学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1	教育課程の編成方針、実	4	非常に明確である。	なし	なし	教育課程編成実施規程

理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	施方針を文書化するなど明確に定めているか。					ほか
	職業教育に関する方針を定めているか。		的確に定められている。	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長補佐 村岡太介		

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	3	学生便覧、シラバスにおいて明確に定めている	学生に対して公表しているが、保護者および関係業界等には公表できていない	保護者および関係業界等には公表する場の検討	学生便覧 シラバス
	職業教育に関する方針を定めているか。		監督官庁からの指導に基づいて様式の統一に取りくんでいる	文書化	文書化	
		記載責任者 職・氏名		学科長 堀之内貴一		

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	3	学生便覧、シラバスにおいて明確に定めている	学生に対して公表しているが、保護者および関係業界等には公表できていない	保護者および関係業界等には公表する場の検討	学生便覧 シラバス
	職業教育に関する方針を定めているか。		監督官庁からの指導に基づいて様式の統一に取りくんでいる	文書化	文書化	
		記載責任者 職・氏名		学科長 松波賢		

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1	教育課程の編成方針、実	3	授業シラバスを作成し	なし	なし	教育課程編成実施規程

理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	施方針を文書化するなど明確に定めているか。		シラバスの共有化を図っている			ほか 非常勤講師との情報共有のため、来校時に面談を行う
	職業教育に関する方針を定めているか。		職業教育にかかる内容を文章化して共有している	非常勤講師との連携		
				記載責任者 職・氏名	学科長	永野 忍

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	4	カリキュラムポリシーを文書化している。	指定規則カリキュラム改正内容に対する整合性の検討。	学科内での定期的見直しと情報共有化を図る。	教育課程編成実施規程 ほか ・作業療法学科のアドミッショն、カリキュラム、ディプロマポリシー ・臨床実習マニュアル
	職業教育に関する方針を定めているか。		カリキュラムポリシーに対応する診療参加型実習による臨床教育マニュアルを作成している。	診療参加型臨床教育方法論に関する学科内専任教員間の習熟度および統一性。	学科専任教員内での臨床教育方法論に関する共有化を図る。併せて臨床実習登録施設との情報共有化を図る。	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 中山仁	

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	4	看護学科シラバスに教育理念を踏まえて、カリキュラム作成における基本概念（教育、環境、人間、看護、健康）からカリキュラムの構造、構築の考え方を明記している。編成方針、実施方針は定めている。	2022年カリキュラム改正に向けて、内容の検討	2022年カリキュラム改正に向けて、理念等に沿った教育課程の見直し・検討 教育課程編成委員会の下位組織として、カリキュラム検討委員会を立ち上げる。	教育課程編成実施規程 看護学科シラバスなど
	職業教育に関する方針を定めているか。		看護学科シラバスに明記	カリキュラム改正に伴う内容検討から職業教	2022年カリキュラム改正に向けて、理念等に	

				育に関する方針の再検討	沿った教育課程の見直し・検討	
記載責任者 職・氏名				学科長 村山由起子		

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	3	学生便覧に記載している。	方針が学生に理解されていない場合がある。	学生指導の方針を明確化し統一する。	教育課程編成実施規程ほか
	職業教育に関する方針を定めているか。		シラバスに明記している。	方針が学生に理解・周知されていない場合がある。	学生指導の方針を明確化し統一する。	
記載責任者 職・氏名				学科長 藤幸枝		

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	4	学生便覧等に明記し、求められる介護福祉士像を意識づけている。	機会あるごとに理念を伝え、求められる介護福祉士像を意識づける。	実習やボランティアの機会を通して、求められる介護福祉士について考える。	教育課程編成実施規程ほか
	職業教育に関する方針を定めているか。		実習要綱等に明記し、教育の基本に据えている。	介護福祉士のイメージを明確に描けるようになる。	卒業生との交流を深める。	
記載責任者 職・氏名				学科長 井上由紀子		

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	4	シラバスなどの作成を明確化している。	特になし。	特になし。	教育課程編成実施規程ほか
	職業教育に関する方針を定めているか。		定めている。	特になし。	特になし。	
記載責任者 職・氏名				学科長 佐藤由起子		

	定めているか。					
記載責任者 職・氏名				学科長 寺本 敦司		

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	3	資格取得と実践を取り入れたカリキュラムを定めている	実践で目標達成した直後次の目標設定が必要である。	目標設定の立て方	教育課程編成実施規程ほか
	職業教育に関する方針を定めているか。		就職に向け、ニーズに沿った資格取得を目標としている	なし	なし	
記載責任者 職・氏名				学科長 菅田 のり子		

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	3	科目ごとのカリキュラム到達目標と時間数を定めている	入国時のレベルのばらつき、進度の遅れにより目標と一致しない時がある	進度、学生の習熟度を細かく確認し、適宜補講、課題などして達成できるようにする	
	職業教育に関する方針を定めているか。		該当しない			
記載責任者 職・氏名				学科長 高野 徳一		

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか。	3	教育課程編成実施規程に定めている	具体的でない	編成の方針や目標とするところを具体化すべき	教育課程編成実施規程ほか
	職業教育に関する方針を定めているか。		教育課程編成実施規程に定めている	日本語のレベルが低い	日本語に関する補講授業	
記載責任者 職・氏名				学科長 川上 聖		

3-8-2

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	4	学生便覧や学則に沿って明示している	なし	なし	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		適合している。	なし	なし	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		行っている。	なし	なし	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		行っている。	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	4	明確にしている。	なし	なし	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		適合している。	なし	なし	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		明確にしている。	なし	なし	

	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		整備されている。	なし	なし	
記載責任者 職・氏名				学科長補佐 村岡太介		

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	4	シラバスの科目ごとの到達レベルを明示。	各科目だけでなく、総合して到達レベルに達しているか不明。	シラバス作成前に到達レベルを周知する。	シラバス
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		シラバスにより科目別の到達レベルを明示している	シラバスの作成だけにとどまっている	理念の周知	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		資格取得のために授業時間外に国家試験対策などの講義と個別対応を実施。	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なり、個別対応により各教員が時間をとられる。	システムの見直し	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		資格取得のために授業時間外に国家試験対策などの講義と個別対応を実施。	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なり、個別対応により各教員が時間をとられる。	システムの見直し	
記載責任者 職・氏名				学科長 堀之内 貴一		

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	4	シラバスにより科目別の到達レベルを明示している	シラバスの作成だけにとどまっている	浸透させるための仕組み作りをしていく	シラバス 入学パンフレット
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		理念に基づきシラバスの作成を行っている	シラバスの作成だけにとどまっている	浸透させるための仕組み作りをしていく	

資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		支援体制は学校独自のサポートにより、講義時間外も対応している	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なり、個別対応により各教員が時間をとられる。	システムの見直し	
		支援体制は学校独自のサポートにより、講義時間外も対応している	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なり、個別対応により各教員が時間をとられる。	システムの見直し	
		記載責任者 職・氏名		学科長 松 波 賢	

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	学年の進級にあたり試験を実施している	試験における合格基準を明確にする	学年毎の到達レベルを設定する	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		授業や実習において専門的知識・技術のみならず理念教育を行っている	理念における学年毎の適合基準を学科内にて共有する。	学会内における学年毎の適合を確認する。	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		授業において教授しており、理学療法士関連団体についても享受している	なし	なし	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		授業及び学生への意識調査にてニーズを確認している	学生の到達レベルを把握する	学生と到達目標の共有を図る	
		記載責任者 職・氏名		学科長 永 野 忍		

作業療法学科
--------

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	カリキュラム、ディプロマポリシーを文書化している。また、進級・卒業要件を学生便覧に明示している。	仮進級判定となった学生の未履修科目に対する対応方法。	学科内での協議を定期的に実施し見解をまとめる。	学生便覧 学則別表授業科目一覧 ・アドミッション、カリキュラム、ディプロマポリシー（作業療法学科） ・平成31年度時間割（作業療法学科） ・カリキュラム（作業療法学科） ・臨床実習登録施設リスト（作業療法学科）
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		理念に基づいたディプロマポリシーを策定している。	完成年度を迎えていないため、理念と教育到達レベルの整合性が現状では確認できない。	ディプロマポリシーについて学科内で定期的に情報を共有化し、理念との適合性を協議する。	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		学生の過度の負担となる時間割の調整と掲示を行っている。各授業科目のシラバスは開示し、学年担任・副担任制を導入し学修支援を行っている。	個別性の高い学習支援体制、方法論の構築が急務である。	学科内での協議を定期的に実施し、個別支援を試行する。	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		国家試験対策に対応する授業科目を各年次に編成している。また、臨床実習施設は学科の臨床教育方針に同意を示し、かつ、学生に物理的負担の少ない施設の確保に努めている。	完成年度を迎えていないため、免許取得と教育到達レベルの整合性が現状では確認できない。	既設の他養成施設の指導体制などについての情報収集を行い、資格・免許取得と教育到達レベルの整備について協議を実施する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐	中山 仁

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	看護学科シラバスに学年ごとの到達目標を明記している。	2022年のカリキュラム改正に向けて準備中	各領域の責任者による定期的なシラバス検討会の実施	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念		教育理念を踏まえて、	カリキュラム改正に向	定期的に会議を開く。	

	等に適合しているか。		教育目的・目標を明確にしており、それから、各学年の到達目標を作成している。	けて、再度見直す必要がある。	他校との交流を図り、情報の共有化を行う。	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		学年ごとに学年担当より取得指導を行っている。また、学校独自の支援体制が整っている。	なし	なし	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		国試担当、就職担当の役割により、支援体制を整備、また、全教員によるゼミ制度に基づき支援体制を強化している。	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	各学年の到達目標を明示している。	到達目標の改善をはかる必要がある。	到達目標のレベルを周知する。	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		理念に基づき作成している。	理念の理解・周知がされていない場合がある。	理解・周知できる仕組みを作っていく。	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		支援している。	教員数が少ないため担当制に限界がある。	教員数の確保。	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		整備している。	計画を立て、指導内容担当制の改善をはかる必要がある。	取得指導・支援隊背ができるような環境づくり。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	4	シラバスや実習要綱に明記し、教員・学生が確認できるようにしている。分かりやすい表現を心がけている。	留学生の日本語力を高め、分かりやすい表現を工夫する。	補習授業などを実施して目標への到達を支援する。	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		教育目標は理念及び「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づいて設定している。	意図的体系的な教育内容の検討	科目相互の重複チェック	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		国家試験の合格を目指し試験対策講座や補習授業を実施している。また日本語の読解力を高める学習を実施。	特になし	特になし	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		資格取得までの過程を年間計画として進めていく。	科目ごとの評価を適切に行う。	学生ごとに支援計画を作成する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 井 上 由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	シラバスに明示している。	学生への説明が不十分である。	ホームルームなどの時間を設けていく。	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		本校の理念等に適合している。	特になし。	特になし。	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしている		オリエンテーション及び授業内にて学生に説明している。	学生への周知が徹底されていない。	主体的に行動できる学生を育成していく。	

	か。 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		資格取得指導、支援体制は整備している。	学生の自主性・主体性を身につけさせることが必要である。	学生に対して、計画性のある学習習慣を身につけさせる。	
			記載責任者 職・氏名		学科長 寺本 敦司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	1年で習得できる資格取得を目指している	なし	なし	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		理念に適合している	個々の習得レベルの差がみられた	教員が情報を共有し対策を検討する	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		オリエンテーションでの説明および各担当者が連携をとり対策している	なし	なし	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		整備できている。	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名		学科長 萩田 のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	コースにより進学、就職に向けたレベルを設定している	学生の習熟度、達成が困難な場合がある	学習面、意識の向上、動機付けを考えた授業をするよう見直し	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		適合している	なし	なし	
	資格・免許の取得を目指す		JLPT 等の日本語の試験	長期的に資格取得のため	目標を学生と共有し、	

す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		該当なし	験の受験の推奨及び対策を行っている、共にそれに対する動機付けも同時にしている	めに学習を行えない学生がいる、日本語能力の不足	長期的に JLPT 等の試験を意識できるよう、授業に組み込む	
				記載責任者 職・氏名	学科長 高野徳一	

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか。	3	シラバスに沿った授業を実施	学生の日本語レベルにバラつきがあり、どのレベルに合わせるのか	日本語の目標を設定し、それに向けて行う	学生便覧 学則別表授業科目一覧
	教育到達レベルは、理念等に適合しているか。		日本語レベルが低い学生がおり、日本語の授業に力をいれている	入試の時点でレベルテストを行い、最低限のラインをひく	なし	
	資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。		資格取得のために、授業を実施	日本語のレベルが低く、問題文が分からなない	なし	
	資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか。		授業時間外に、希望学生に授業	時間外に勉強をしたい学生がいない	資格の重要性を説明し、時間外授業を周知させる	
				記載責任者 職・氏名	学科長 川上聖	

### 3-9 教育方法・評価等

3-9-1

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った 教育課程を編成してい るか。	教育課程を編成する体 制は、規程等で明確にし ているか。	4	明確である	なし	なし	教育課程編成実施規程 教育課程編成委員会に 関する規程 教育課程編成委員会議 事録 学生便覧 学則別表授業科目一覧
	議事録を作成するなど 教育課程の編成過程を 明確にしているか。		作成している	なし	なし	
	授業科目的開設におい て、専門科目、一般科目 を適切に配分している か。		配分している	なし	なし	
	授業科目的開設におい て、必修科目・選択科目 を適切に配分している か。		配分している	なし	なし	
	修了に係る授業時数、 単位数を明示してい るか。		明示している	なし	なし	
	授業科目的目標に照ら し、適切な教育内容を提 供しているか。		提供している	なし	なし	
	授業科目的目標に照ら し、講義・演習・実習等、 適切な授業形態を選択 しているか。		選択している	なし	なし	
	授業科目的目標に照ら し、授業内容、授業方法 を工夫するなど学習指 導は充実しているか。		充実している	なし	なし	
	職業実践教育の視点で、 科目内容に応じ、講義・ 演習・実習等を適切に配 分しているか。		適切に配分している	なし	なし	
	職業実践教育の視点で		工夫している	なし	なし	

	教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。				
	単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。	適切な指導を行っている	なし	なし	
	授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか。	作成している	なし	なし	
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。	毎年改定している	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名	学科長補佐	社由洋

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	4	明確である。	なし	なし	教育課程編成実施規程 教育課程編成委員会に関する規程 教育課程編成委員会議事録 学生便覧 学則別表授業科目一覧
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		明確である。	なし	なし	
	授業科目的開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		配分されている。	なし	なし	
	授業科目的開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		配分されている。	なし	なし	
	修了に係る授業時数、単位数を明示している		明示している。	なし	なし	

か。			
授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。	提供している。	なし	なし
授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。	選択している。	なし	なし
授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。	学習指導は充実している。	なし	なし
職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。	配分している。	なし	なし
職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。	毎年教材作成を行い工夫している。	なし	なし
単位制の学科において、履修科目的登録について適切な指導を行っているか。	適切な指導であった。	なし	なし
授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか。	作成している。	なし	なし
教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。	改定している。	なし	なし
		記載責任者 職・氏名	学科長補佐 村岡太介

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料

3-9-1 教育目的・目標に沿った 教育課程を編成してい るか。	3	教育課程を編成する体 制は、規程等で明確にし ているか。	理念に基づいて規程を 明確している	なし	なし	学生便覧 シラバス
		議事録を作成するなど 教育課程の編成過程を 明確にしているか。	会議ごとに議事録を作 成している。	なし	なし	
		授業科目の開設におい て、専門科目、一般科目 を適切に配分してい るか。	はり師・きゅう師学校 養成施設指定規則に準 じて行っている。	なし	なし	
		授業科目の開設におい て、必修科目・選択科目 を適切に配分してい るか。	全て必修科目であり、 選択科目はない。	なし	なし	
		修了に係る授業時数、 単位数を明示してい るか。	学生便覧に記載されて ある。	なし	なし	
		授業科目の目標に照ら し、適切な教育内容を提 供しているか。	到達レベルを設定し、 教育内容を設定してい る。	業界のニーズに合って いるかどうか。	業界の方に意見を賜 る。	
		授業科目の目標に照ら し、講義・演習・実習等、 適切な授業形態を選択 しているか。	到達レベルを設定し、 教育内容を設定してい る。	業界のニーズに合って いるかどうか。	業界の方に意見を賜 る。	
		授業科目の目標に照ら し、授業内容、授業方法 を工夫するなど学習指 導は充実しているか。	到達レベルを設定し、 教育内容を設定してい る。	業界のニーズに合って いるかどうか。	業界の方に意見を賜 る。	
		職業実践教育の視点で、 科目内容に応じ、講義・ 演習・実習等を適切に配 分しているか。	定期的な会議にて意 見を頂き、反映させよう としている。	なし	なし	
		職業実践教育の視点で 教育内容・教育方法・教 材等について工夫して いるか。	定期的な会議にて意 見を頂き、反映させよう としており、今年度は 注目を浴びている美容	業界のニーズに合って いるかどうか。	業界の方に意見を賜 る。	

		鍼灸の先生をお招きした。		
	単位制の学科において、履修科目的登録について適切な指導を行っているか。	行えている。	なし	なし
	授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか。	科目ごとにシラバスを作成している。	科目間の連携。	定期的に会議等を実施し、把握する。
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。	カリキュラムを変更	内容が適切に機能しているかを把握する	定期的に会議等を実施し、把握する。
記載責任者 職・氏名			学科長	堀之内 貴一

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	理念に基づいて規程を明確している	時勢にあったものか常に見定める必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	学生便覧 シラバス
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		定期的な会議を実施しカリキュラムに反映させようとしている	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		定期的な会議を実施しカリキュラムに反映させようとしている	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		定期的な会議を実施しカリキュラムに反映させようとしている	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		学生便覧に定めてある	入学前段階の個別対応で知る機会があるが効率が良くない	入学前段階で広く伝えられるような仕組みづくりを検討	

	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		卒業時の到達レベルに目標において教育内容の設定を行っている	教員が安定せずに浸透度合いの差がみられる。	定期的な会議、授業見学などを通じて浸透を図っていく
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		卒業時の到達レベルに目標において教育内容の設定を行っている	教員が安定せずに浸透度合いの差がみられる。	定期的な会議、授業見学などを通じて浸透を図っていく
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		卒業時の到達レベルに目標において教育内容の設定を行っている	教員が安定せずに浸透度合いの差がみられる。	定期的な会議、授業見学などを通じて浸透を図っていく
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		定期的な会議を実施しトレーナーをしている鍼灸師の先生に講義を依頼している	内容が適切に反映できているかを把握する	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		定期的な会議を実施しトレーナーをしている鍼灸師の先生に講義を依頼している	内容が適切に反映できているかを把握する	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す
	単位制の学科において、履修科目的登録について適切な指導を行っているか。		指導は行えている	未取得単位の勉強意欲だけになってしまい、全体の習熟度が低下している	全体の習熟度を上げるために個別面談を行う
	授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか。		全体のシラバス作成は年度初めに完成している	コマシラバスの作成を個々の教員に一任しており一貫していない	コマシラバスに関しては学科内会議によってどうするか検討する
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		カリキュラムを変更	内容が適切に反映できているかを把握する	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す
			記載責任者 職・氏名		学科長 松波 賢

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料

3-9-1 教育目的・目標に沿った 教育課程を編成してい るか。	4	教育課程を編成する体 制は、規程等で明確にし ているか。	会議等を行い、情報共 有を図り、議事録等資 料の作成後学科にて共 有している	なし	なし	教育課程編成実施規程 教育課程編成委員会に 関する規程 教育課程編成委員会議 事録 学生便覧 学則別表授業科目一覧
		議事録を作成するなど 教育課程の編成過程を 明確にしているか。	会議等を行い、情報共 有を図り、議事録等資 料の作成後学科にて共 有している	なし	なし	
		授業科目の開設におい て、専門科目、一般科目 を適切に配分してい るか。	基礎科目・専門基礎科 目・専門科目に分配し ている	なし	なし	
		授業科目の開設におい て、必修科目・選択科目 を適切に配分してい るか。	全科目必須科目である	なし	なし	
		修了に係る授業時数、 単位数を明示してい るか。	授業シラバス明示して いる	なし	なし	
		授業科目の目標に照ら し、適切な教育内容を提 供しているか。	授業シラバスに則って 授業を実施している	なし	なし	
		授業科目の目標に照ら し、講義・演習・実習等、 適切な授業形態を選択 しているか。	授業シラバスに則って 授業を実施している	なし	なし	
		授業科目の目標に照ら し、授業内容、授業方法 を工夫するなど学習指 導は充実しているか。	授業評価を参考に授業 の精度を高めるよう している。	なし	なし	
		職業実践教育の視点で、 科目内容に応じ、講義・ 演習・実習等を適切に配 分しているか。	授業シラバスに則って 授業を実施している	なし	なし	
		職業実践教育の視点で 教育内容・教育方法・教	授業シラバスに則って 授業を実施している	教育内容の精度の確認 を図る	授業評価を授業に反映 する。	

	材等について工夫しているか。				
	単位制の学科において、履修科目的登録について適切な指導を行っているか。		学生へ意識調査を行うため随時面談を行う	なし	なし
	授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか。		授業シラバスを作成している	なし	なし
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		理学療法士作業療法士指定規則に則って校正をしている	2020年度の改正に伴い見直しを行う	指定規則に則り授業科目及び実数の見直しを行う
記載責任者 職・氏名			学科長 永野 忍		

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	学生便覧に教育課程を明示している。	指定規則カリキュラム改正に伴う、教育課程の再編成が課題である。	指定規則カリキュラム改正内容を学科内で共有し、教育目的・目標に沿った教育課程再編成の検討および協議を実施する。	教育課程編成実施規程 教育課程編成委員会に関する規程 教育課程編成委員会議事録 学生便覧 学則別表授業科目一覧 ・シラバス(平成31年度作業療法学科科目) ・教職員による授業参観アンケート用紙
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		教育課程編成に関する協議は学科会議にて行い、議事録を作成している。	教育課程編成委員会の開催に向けた計画立案が課題である。	教育課程編成委員会の開催に向けた詳細について定期的に検討する。	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		指定規則に基づいて、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3分野に大別し、科目を配分している。	指定規則カリキュラム改正に伴う、教育課程の再編成が課題である。	指定規則カリキュラム改正内容を学科内で共有し、教育目的・目標に沿った教育課程再編成の検討および協議を実施する。	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目		指定規則に基づいて、必修科目を配分していない	現行の教育課程に選択科目を配分していない	指定規則カリキュラム改正内容を学科内で共	

	を適切に配分しているか。		る。	のが課題である。	有し、理念、教育目的・目標、職業実践教育の視点、到達レベルといった多様な観点から教育課程再編成の検討および協議を実施する。	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		授業時数、単位数を科目ごとに教育課程に明示している。	指定規則カリキュラム改正に伴う、教育課程の再編成が課題である。	教育課程再編成の検討および協議において授業時数や単位数も考慮して実施する。	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		授業科目ごとにシラバスを作成、開示している。また、教職員による授業参観および評価を実施している。	学生による授業評価、教職員による授業参観および評価が教育内容に反映されているかの定期的なモニタリングが未実施である。	学生および教職員による授業評価結果の共有化と教職員による授業参観および評価をモニタリングも含めて継続して実施する。	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。		カリキュラムポリシーおよび指定規則に基づいて、授業科目の授業形態を編成している。	学生による授業評価、教職員による授業参観および評価が適切な授業形態の選択に反映されているかの定期的なモニタリングが未実施である。	学生および教職員による授業評価結果の共有化と教職員による授業参観および評価をモニタリングも含めて継続して実施する。	
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。		教職員による授業参観および評価を実施し、授業科目担当教員が授業内容、方法の見直しと工夫を行っている。	学生による授業評価、教職員による授業参観および評価が適切な授業内容や方法の工夫に反映されているかの定期的なモニタリングが未実施である。	学生および教職員による授業評価結果の共有化と教職員による授業参観および評価をモニタリングも含めて継続して実施する。また、専任教員が教育研究・研修に携わる機会を充実させる。	
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。		カリキュラムポリシーおよび指定規則に基づいて、授業科目の授業形態を選択し編成して	指定規則カリキュラム改正に伴う、教育課程の再編成が課題である。	指定規則カリキュラム改正内容を学科内で共有し、職業実践教育の視点で教育課程再編成	

		いる。		の検討および協議を実施する。	
職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		国家試験と臨床技能の両者の観点から、教育内容や方法を学科会議等で検討している。	臨床現場等の作業療法士からの教育内容や教育方法に関する意見交換や情報の共有化を図る機会が乏しい。	臨床教育者会議等を通じて、臨床現場等の作業療法士からの教育内容や教育方法に関する意見や情報を収集する。	
単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。		年度、学期ごとにオリエンテーションを実施し、開講科目の履修および試験に関する指導を行っている。	選択科目を配分した場合、履修登録システムの構築が必要である。	教育課程再編成に対する検討では、履修登録システムの構築も含めて協議する。	
授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか。		すべての授業科目において、担当教員がシラバスを作成している。	コマシラバスの作成は学科方針として統一されていない。	シラバス・コマシラバスの作成に関する情報収集と共有化を学科教員間で図る。	
教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		学科会議等で教育課程に関する検討を定期的に行っている。	指定規則カリキュラム改正に対応した教育課程の再編成が課題である。	指定規則カリキュラム改正内容を学科内で共有し、教育課程再編成の検討および協議を実施する。	
			記載責任者 職・氏名	学科長補佐 中山 仁	

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	教育課程について、学科内の会議で情報の共有化を図っている。	教育課程の評価を踏まえて、カリキュラム改正へ活用できるようにする。	定期的な検討会を実施する。	教育課程編成実施規程 教育課程編成委員会に関する規程 教育課程編成委員会議事録 学生便覧
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を		学科会議で検討した内容について、議事録を	検討した内容の実践	各担当を明確にする	

学則別表授業科目一覧			
明確にしているか。	作成し共有化を図っている。 看護師養成所指定規則に基づき、適切に配分している。		
授業科目的開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		カリキュラム改正に向けて、科目の検討を実施する必要がある。	カリキュラム検討委員会で会議を定期的に行う。
授業科目的開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。	全科目必修科目である。	教科外活動の内容検討	会議で検討する予定
修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。	明示している。	なし	なし
授業科目的目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。	シラバスに基づいて、適切な教育内容を提供している。	教育内容の精度を高める。	教育内容についての定期的な学習会の開催
授業科目的目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。	シラバスに基づいて、適切な授業形態を選択している。	演習の項目・時間数などの検討	会議等での問題点の共有化と改善点の明確化
授業科目的目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。	授業科目的目標が達成できるように、シラバスに基づいて、学習指導の充実に努めている。	教育内容の精度の確認が必要であり、各教員の教育力を向上させる必要がある。	教育力を高めるための講習会参加、他教員による授業評価の実施
職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。	配分している。	関連業界のニーズとの整合性及び学生の適合	学生及び実習病院に対して情報収集を行う。
職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。	定期的な会議を行い、職業実践教育の視点で、工夫するようにしている。	なし	なし
単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行って	全体への説明、個々人への具体的な説明を実施している。	未履修科目について、学習意欲の動機づけが難しい	定期的な指導の機会を作る。教員間の情報の共有化

いるか。 授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか。 教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		作成している。	領域における科目担当者の協議	定期的な会議の開催	
		定期的に会議を行い、見直し・改定を行っている。	科目の精選	カリキュラム検討委員会による定期的な会議の実施	
		記載責任者 職・氏名		学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	学生便覧委教育課程を明示している。	なし。	なし。	教育課程編成実施規程 教育課程編成委員会に関する規程 教育課程編成委員会議事録 学生便覧 学則別表授業科目一覧
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		学科会議にて議事録を作成している。	教育課程編成委員会の階差に向けた計画が必要。	詳細について定期的に検討する。	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		配分している。	専門科目の配分。	専門科目の充実化を行い実践する。	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		配分している。	選択科目の配分。	選択科目の充実化を行い実践する。	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		明示している。	なし。	なし。	
	授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。		提供している。	なし。	なし。	
	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、		選択している。	精度や進捗状況の把握。	評価の考察。	

適切な授業形態を選択しているか。 授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。 職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。 授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか。 教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		充実している。	評価の統一性。	評価の考察。
		配分している。	実習の担当教員が少ないことが課題。	教員数の増加。
		講義と臨床の立場で授業や実習を行い、より実践的に行う。	1年次で歯科衛生士としてのイメージを抱くこと。	1年次での臨床実習見学を取り入れるためのカリキュラム見直し。
		指導を行っている。	なし。	なし。
		作成している。	なし。	なし。
		行っている。	なし。	なし。
		記載責任者 職・氏名	学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	4	教育理念、目的、目標を基に教育課程の概要を編成。指定規則に則っている。	生活支援の基礎となる生活や文化についての理解を深める。	カリキュラムの検討、各科目の教育内容の見直しを実施する。	教育課程編成実施規程 教育課程編成委員会に関する規程 教育課程編成委員会議事録 学生便覧
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を		学科会議、教育課程編成委員会等の議事録を	特になし	特になし	

学則別表授業科目一覧			
明確にしているか。	作成して編成過程を明確にしている。 指定規則に則って適切に配分している。	さらに基礎科目的充実が必要。	新カリキュラム移行時に検討する。
授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。	指定規則に則って設定している。	指定外の科目も全て必修になっている。	新カリキュラム移行にあたって総合的にカリキュラムの検討が必要。
授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。	指定規則に則った時間数、単位数を学生便覧、学則に明示している。	特になし	特になし
修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。	「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」(厚労省)を踏まえて教育内容を提供している。	留学生は専門教育の授業の進度が早いと感じている。	授業を理解するための日本語力を高める取り組みを継続する。
授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか。	授業科目はすべて講義・演習・実習等の授業形態に区分し、学則や学生便覧に明示している。	特になし	特になし
授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。	シラバスにおいて講義内容、授業計画を明示し、授業を公開している。	留学生が授業を理解するには補助資料が必要。	教員間の情報共有を進め、科目や内容によって、補助として複数の教員を配置する。
授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。	指定規則に則って介護福祉士養成の視点から適切な授業形態で実施している。	特になし	特になし
職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。	具体的な事例を使って学習したり、介護の現場に出かけて体験的な学びを重視している。	特になし	特になし
職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。	次年度から単位制へ移	特になし	特になし
単位制の学科において、			

履修科目的登録について適切な指導を行っているか。 授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか。 教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。	行する。			
		全授業科目についてシラバス及びコマシラバスを作成している。	特になし	特になし
		教育課程、内容は「定期的に検討し改定については「教育内容の見直し」(厚労省)を踏まえて行う予定。	特になし	特になし
		記載責任者 職・氏名 学科長 井 上 由紀子		

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか。	3	学生便覧に記載され、オリエンテーションにて説明している。	学生がどの程度、理解しているかが問題である。	定期的な説明する場を設ける。	教育課程編成実施規程 教育課程編成委員会に関する規程 教育課程編成委員会議事録 学生便覧 学則別表授業科目一覧
	議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか。		議事録の作成をしている。	業界の変化に敏感にならなければならない。	非常勤講師・卒業生との連携を図り、業界の流れをつかむ。	
	授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか。		授業科目において、専門科目、一般科目を配分している。	一般科目で学習すべき内容を検討する。	キャリア教育につながるカリキュラムの検討が必要である。	
	授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか。		本学科で開講している科目はすべて必須科目である。	特になし。	特になし。	
	修了に係る授業時数、単位数を明示しているか。		シラバスにおいて授業時数、単位数を明示している。	特になし。	特なし。	
	授業科目の目標に照ら		資格取得に必要な科	授業内容の進捗度の確認	非常勤講師との連携が	

し、適切な教育内容を提供しているか。	目、資格試験対策の科目を提供している。	認をしていく。	必要である。
授業科目的目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。	資格取得に必要な授業形態を選択している。	演習・実習科目に関する授業内容を再検討していく。	学ぶべき必要な技術を明確にさせる。
授業科目的目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。	授業内容に準じ、骨模型、動画などを用いている。	授業内容の理解度を確認していく。	授業アンケートを用い、学生の理解度を確認していく。
職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。	講義の配分が多いように感じられる。	演習・実習等でキャリア教育に必要な知識を学習させる。	カリキュラム内容の再検討が必要である。
職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。	常に活動するスポーツ現場をイメージさせ、学習意欲向上を目指している。	スポーツ活動を支援していくカリキュラムが必要である。	スポーツ現場での経験を積ませていける場を設けていく。
単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか。	該当なし。	該当なし。	該当なし。
授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか。	作成している。	特になし。	特になし。
教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。	年度末に改定するようなシステムを構築中である。	定期的な改定をしていく流れを作っていく。	年度末に教育課程を見直していく時間を設ける。
記載責任者 職・氏名		学科長 寺 本 敦 司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料

3-9-1 教育目的・目標に沿った 教育課程を編成してい るか。	4	教育課程を編成する体 制は、規程等で明確にし ているか。	明確である	なし	なし	教育課程編成実施規程 教育課程編成委員会に 関する規程 教育課程編成委員会議 事録 学生便覧 学則別表授業科目一覧
		議事録を作成するなど 教育課程の編成過程を 明確にしているか。	なし	なし	なし	
		授業科目の開設におい て、専門科目、一般科目 を適切に配分してい るか。	配分している	なし	なし	
		授業科目の開設におい て、必修科目・選択科目 を適切に配分してい るか。	全て必修科目である	なし	なし	
		修了に係る授業時数、 単位数を明示してい るか。	学生便覧に単位数の み明示している	なし	なし	
		授業科目の目標に照ら し、適切な教育内容を提 供しているか。	業界のニーズに合っ たもののが提供できてい る	なし	なし	
		授業科目の目標に照ら し、講義・演習・実習等、 適切な授業形態を選択 しているか。	資格取得に向けた授 業形態の選択を行っ ている	なし	なし	
		授業科目の目標に照ら し、授業内容、授業方法 を工夫するなど学習指 導は充実しているか。	資格取得に向けた充 実した授業内容であ る。	習得レベルの差をなく す	補講等で対応する	
		職業実践教育の視点で、 科目内容に応じ、講義・ 演習・実習等を適切に配 分しているか。	講義時間数が少ない	主体性が乏しい	接遇を含む社会人力 の講義数を増やす	
		職業実践教育の視点で 教育内容・教育方法・教 材等について工夫して いるか。	更に良くなるための改 善は必要である	人財育成の観点で技 術以外の部分の指導	接遇を含む社会人力 の講義数を増やす	

単位制の学科において、履修科目的登録について適切な指導を行っているか。	3	行っている	なし	なし	
		作成している	なし	なし	
		行っている	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長 菅田 のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った 教育課程を編成してい るか。	教育課程を編成する体 制は、規程等で明確にし ているか。	3	ある	なし	なし	教育課程編成実施規程 教育課程編成委員会に 関する規程 教育課程編成委員会議 事録 学生便覧 学則別表授業科目一覧
	議事録を作成するなど 教育課程の編成過程を 明確にしているか。		作成していない	なし	なし	
	授業科目の開設におい て、専門科目、一般科目 を適切に配分してい るか。		該当しない	なし	なし	
	授業科目の開設におい て、必修科目・選択科目 を適切に配分してい るか。		該当しない	なし	なし	
	修了に係る授業時数、 単位数を明示してい るか。		該当しない	なし	なし	
	授業科目の目標に照ら し、適切な教育内容を提 げるか。		カリキュラムに従い行 っている	なし	なし	

供しているか。	授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか。	該当しない	なし	なし
	授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか。	各担当が工夫して行っている	なし	なし
	職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか。	該当しない	なし	なし
	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。	該当しない	なし	なし
	単位制の学科において、履修科目的登録について適切な指導を行っているか。	該当しない	なし	なし
	授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか。	作成している	入国の遅れや、想定していた学生のレベルよりかなり低い場合、変更や遅れが生じる	課題の点をさらに考慮した計画を立てる
	教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。	半期ごとに見直している	なし	なし
			記載責任者 職・氏名	学科長 高野徳一

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料

3-9-1 教育目的・目標に沿った 教育課程を編成してい るか。	3	シラバスの通りに実施	なし	なし	教育課程編成実施規程 教育課程編成委員会に 関する規程 教育課程編成委員会議 事録 学生便覧 学則別表授業科目一覧
		会議を行った際は、日 報に内容を記載、報告	なし	なし	
		シラバスの通り	なし	なし	
		シラバスの通り	なし	なし	
		シラバスに明示してあ る	なし	なし	
		科目に沿った授業内 容を実施	日本語レベルに差があ りすぎる	就職できるような授業 を徹底的に行う	
		学生のレベルに合わせ た授業を実施	なし	なし	
		学生がモチベーション を保てるような授業を 行っている	なし	なし	
		シラバスに書かれてい る通りに行っている	なし	なし	
		写真、映像などを使用 し、授業を行っている	日本のホテルへ入った ことがないため、イメ ージしにくい	いろいろなホテルへ見 学に行く	

単位制の学科において、履修科目的登録について適切な指導を行っているか。 授業科目について授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか。 教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか。		行っている	説明を理解できない学生もいる	理解するまで説明	
		作成している			
		学科会議、非常勤講師と話し合いを行っている	なし	このまま続けることが必要	
		記載責任者 職・氏名		学科長 川上聖	

3-9-2

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	4	行っている	なし	なし	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		行っている	なし	なし	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		行っている	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名		学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	4	委員会内で行っている。	なし	なし	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		委員会内で行っている。	なし	なし	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		委員会内で行っている。	なし	なし	
					記載責任者 職・氏名	学科長補佐 村岡太介

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	3	年2回授業評価アンケートを実施している。	教員の科目別の評価を次に反映できていない。	検討会を設けて、意見交換を行う。	
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		定期的な会議を実施し業界・機関等との意見交換などを行っている	来年度以降のカリキュラムにどう反映させるか。	会議を通じ、意見交換を行う。	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生の就職先を聞くだけにとどまっている	意見を聞く場所を設ける	企業説明会の際に就職した卒業生の話を聞く	
					記載責任者 職・氏名	学科長 堀之内貴一

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料

3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	3	年2回授業評価アンケートを実施している。	教員の科目別の評価を次に反映できていない。	検討会を設けて、意見交換を行う。	授業アンケート
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		定期的な会議を実施し業界・機関等の意見聴取を行っている	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生の就職先を聞くだけにとどまっている	意見を聞く場所を設ける	企業説明会の際に就職した卒業生の話を聞く	

記載責任者 職・氏名	学科長 松波 賢
------------	----------

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	2	在校生に意見聴取している	教育課程の編成及び改定において、卒業生の意見聴取や評価を行う	卒業生への意見聴取を行い、教育課程の編成を検討する	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		教育課程編成委員会にて意見聴取や評価を行っている	教育課程編成委員会にて意見聴取や評価を反映する	教育課程編成委員会にて意見聴取や評価をもとに教育課程を見直す	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生より意見聴取を行っている	臨床実習における教育の充実	臨床実習指導者会議において指導者との連携を図る	
記載責任者 職・氏名	学科長 永野 忍					

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2	教育課程の編成及び改	2	学生による授業評価、	授業評価等の結果を踏	授業評価等の結果をも	教育課程編成委員会議

教育課程について外部の意見を反映しているか。	定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。		教職員による授業参観・評価を行っている。	まえた教育課程再編成に関する協議の場が不足している。	とに教育課程編成について協議する。	事録 ・学生授業評価
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		非公式ではあるが、学科設置申請時において外部（協会、臨床現場の作業療法士等）からの意見を聴取し、教育課程を編成した。	外部（協会、臨床現場の作業療法士等）からの意見聴取、情報収集を行う公式な場の未設定。	教育課程編成委員会開催に向けた計画立案を協議する。また、臨床教育者会議では臨床実習施設からの意見や情報収集を行えるよう会議内容の計画立案を行う。	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		医療保健福祉機関からの求人に関する対応を通して、求められている作業療法士像の情報を収集している。	完成年度を迎えていないため、卒業生および就職先等の対象が存在しない。	卒業生輩出後の職業実践教育の効果についての意見聴取や評価のための情報収集等の具体的な方法論について検討し、計画立案する。	
			記載責任者 職・氏名		学科長補佐 中山 仁	

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	3	学生による1回／年の授業評価を実施している。また、在校生については、適宜、面談等で情報収集を行っている。	授業評価の結果を踏まえ、教育課程編成についての協議が不足している。	定期的に会議を持ち、教育課程編成について検討する。	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		教育課程編成委員会の外部講師からのご指摘や実習病院等より、評価を頂くようにしている。	聴取の方法と評価の時期を明確にする。	聴取の方法と評価の時期について検討し、決定する。	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生や就職先より、意見聴取をしている。	職業実践教育の効果として、評価を反映させる。	評価の時期と教育への反映について協議する。	

	記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子
--	------------	-----------

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	2	学生による授業評価を行っている。	外部の意見をもうける。	外部の意見を設ける機会をつくる。	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		現在は行っていないが、教育編成委員会にて意見聴取・評価を行う。	なし。	なし。	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生を輩出していない。	なし。	なし。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	4	教育課程編成委員会において介護福祉士養成施設卒業生の意見を聴取している。	特になし	特になし	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		教育課程編成委員会において業界や機関等の意見聴取を行っている。	これらの意見を教育課程の改定時に反映させる。	特になし	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生や就職先に意見聴取を行い養成教育の効果と課題を分析している。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 井上由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	3	教育課程の編成及び改訂の意見聴取や評価を行っている。	教育課程の編成及び改訂において、速やかな対応が必要である。	授業内において、速やかな反映していくようする。	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		教育課程編成委員からの意見聴取・評価を受けている。	教育課程編成委員の意見・評価などを速やかに反映する。	授業内において、速やかな反映していくようする。	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		教育課程編成委員からは、意見を意見聴取、評価を受けている。	教育課程編成委員の意見・評価などを速やかに反映する。	授業内において、速やかな反映していくようする。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 寺本敦司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	3	行っている	なし	なし	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		行っている	なし	なし	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		行っている	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 萩田のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	3	該当しない	なし	なし	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		該当しない	なし	なし	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		該当しない	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 高野徳一	

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか。	教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか。	3	卒業生はいないため、在校生からは行っている	なし	このまま継続	教育課程編成委員会議事録
	教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか。		非常勤講師の方々から意見を頂戴している	まだ新しい学科のため、関連機関との交流が少ない	実習先のホテル、非常勤講師の方々から情報を収集	
	職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		まだ卒業生がいないため、できない	配属先が未定の学生がいるため、担当者が分からない	時々、卒業生と連絡を取り、状況を把握	
				記載責任者 職・氏名	学科長 川上聖	

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	4	定めている	なし	なし	キャリア教育実施規程
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		工夫している	なし	なし	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		行っている	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	4	定め、共有している。	なし	なし	キャリア教育実施規程
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		毎年修正を加えながら作成している。	なし	なし	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		行っている。	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 村岡太介	

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	3	定めている。	なし	現況に合った指導方法を定める。	
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		今年度は業界のニーズも高い、美容鍼灸の先生をお招きし、授業を実施。	業界のニーズに合っているか。	業界の方に意見を賜る。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		していない	意見を聴取する場などがない。	意見聴取できる場を設ける。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 堀之内 貴一	

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	3	働く人などが通いやすいように最低限の単位で行っているのでキャリア教育はカリキュラム以外のセミナーで実施している	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	シラバス
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		働く人などが通いやすいように最低限の単位で行っているのでキャリア教育はカリキュラム以外のセミナーで実施している	来年度からカリキュラム改正を行い、今後に反映させていく必要がある	定期的な会議を通じて現状報告を行い、記録に残す	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生は今年度輩出	今後卒業生と連絡を取っていく必要がある	どういった方法や内容で連絡をとつてつなげていくか検討	

	記載責任者 職・氏名	学科長 松 波 賢
--	------------	-----------

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	3	本学科におけるキャリア教育とは臨床実習がそれに該当する。この実習にあたっては実習開始前に臨床実習指導者らと臨床実習指導者会議を通して、実習の意義や指導方法等を協議している。	本学科が提唱する臨床参加型実習の徹底を図る	臨床実習指導者会議を利用して臨床参加型実習の実践報告会を積み重ね、全臨床実習先に導入してもらう。	キャリア教育実施規程
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		授業シラバスに則って授業を実施しており、特に臨床経験チェックシートを使って、教育内容や指導方法などを把握している。	教育内容の精度の確認を図り、次の実習先への伝達を徹底する。	教員側で臨床経験チェックシートの内容を確実に確認し、必要に応じて次の実習指導者へ伝達する。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		学生及び臨床実習指導者より意見聴取を行っている。	教育効果に疑問を感じる事柄の一掃を協議しなければならない。	実習先への教員訪問や臨床実習指導者会議において課題解決を図る。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 永野 忍	

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	2	カリキュラム・ディップロマポリシーに基づいて、キャリア教育に該当する授業科目を編成している。	キャリア教育の意義、指導方法等に関する学科内における情報の共有化および知識水準。	カリキュラム・ディップロマポリシーに基づいた教育課程とキャリア教育の関連性および意義、指導方針等について学科会議等を通して	キャリア教育実施規程

				情報共有化を図る。	
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		授業科目「医療コミュニケーション学」を1年次に開講し、コミュニケーションとマナーに関する教育を実践している。	学科専任教員のキャリア教育に関する知識、技能の水準。	専任教員がキャリア教育に関する研修を受ける機会の設定や充実を図る。
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		完成年度を迎えていないため、卒業生・就職先等の意見聴取や評価は行っていない。	キャリア教育の効果の指標、検討方法について現状では計画されていない。	キャリア教育の効果検証のための情報収集および分析についての計画立案を協議する。
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 中山 仁

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	3	専門領域の授業で、意義・指導方法等について説明している。	キャリア教育の内容の精査	授業内容について、今後検討する。	キャリア教育実施規程
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		各専門領域の授業において、各学年に応じた内容で工夫している。	授業で実施している内容について、教員間での共有化	今後会議で検討する。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		今年初めて卒業生を輩出したので、今後卒業生・就職先より評価を頂く予定である。	評価の方法等の検討	学科会議等で検討する予定	
				記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施し	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方	2	定めていない。	方針を定めていく。	計画を立案する。	

ているか。	法等に関する方針を定めているか。					
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		授業科目にて工夫している。	授業内容の把握。	教員による授業参観を行う。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生を輩出していない。	なし。	なし。	
			記載責任者 職・氏名		学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	4	教育課程において明確なキャリア教育の位置づけはないが、各科目で介護福祉士の将来像が描けるような取り組みを行っている。	教育課程に中の位置づけを検討する必要がある。	特になし	キャリア教育実施規程
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		教員研修等専門部会の提言に関心を払い教育内容に反映させていく。	系統的なキャリア教育の取り組みが必要。	学生のキャリアアップへの意欲を高めるために、教員の研修機会を増やす。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		卒業生や就職先等の意見採取し、学科会議などで検討している。	特になし	特になし	
			記載責任者 職・氏名		学科長 井上 由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施し	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方	3	将来のビジョンを描けていけるような在学中	本学科入学の目標が明確に描けない学生が多い	改めて、キャリア教育を進めていく授業を検	キャリア教育実施規程

ているか。	法等に関する方針を定めているか。		に何をすべきかを考えさせている。	る。	討している。	
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		学校生活において手帳を活用し、スケジュール立案していくよう指導している。	手帳を利用する習慣が定着しない	スケジュールの使用を習慣化させる指導をしていく。	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		教育課程編成委員会にて意見聴取、評価を行っている。	速やかな対応が求められる。	卒業生を招き、卒業後の自分のあり方をイメージさせていく。	
			記載責任者 職・氏名		学科長 寺本 敦司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	3	課外授業で実践している	季節・天候に左右される	実施時期を再検討する	キャリア教育実施規程
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		課外授業のたびに事前教育を工夫している	なし	なし	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		行っている	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名		学科長 薩田 のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	2	教員が中心となり行っている	教員の負担が大きい	分担できることは分担する、キャリアサポートチームができれば尚いい	

キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。	工夫しているが、専門の者が指導をしているわけではない	授業外での指導が増える	授業の中に取り入れて指導していく	
キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。	行っていない	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長 高野徳一

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか。	3	定めていない	方針を決定する		キャリア教育実施規程
	キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか。		学生にレベルに合わせた教材を使用し、授業を行っている	日本語レベルにバラつきがあり、どのレベルに合わせるか	N3 レベルの日本語はわかるよう、補講などを行う	
	キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか。		まだ卒業生がない		卒業生輩出後、確認	
		記載責任者 職・氏名		学科長 川上聖		

3-9-4

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	3	授業評価アンケートを行っている。	なし	なし	授業評価アンケート 授業評価フィードバック票
	学生に対するアンケート		今年から年に2回行つ	なし	なし	

ト等の実施など、授業評価を行っているか。 授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		ている				
		現在はない	連携が必要	臨床実習施設などを活用する		
		活用している	なし	なし		
		記載責任者 職・氏名			学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	4	整備している。	なし	なし	授業評価アンケート 授業評価フィードバック票
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		行われている。	なし	なし	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		協力している。	なし	なし	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		活用されている。	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名			学科長補佐 村岡 太介	

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	3	年2回授業評価アンケートを実施している。	教員の科目別の評価を次に反映できていない。	検討会を設けて、意見交換を行う。	授業評価アンケート 授業評価フィードバック票
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		年2回授業評価アンケートを実施している。	教員の科目別の評価を次に反映できていない。	検討会を設けて、意見交換を行う。	

授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		なし。	協力体制を作る場が必要。	協力体制を整える場を検討する。	
		評価実施後、面談を行っている。	科目ごとの改善策として、教授科目を変える手段しかない。	スキルアップするための場と時間を設ける。	
		記載責任者 職・氏名		学科長 堀之内 貴一	

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	3	年2回授業評価アンケートを実施している。	実施するだけではなく、評価を明確にする必要がある。	検討会を設けて、意見交換を行う。	授業アンケート
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		年2回授業評価アンケートを実施している。	実施するだけではなく、評価を明確にする必要がある。	検討会を設けて、意見交換を行う。	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		他の学科間での意見交換をしている	第三者機関の協力体制は整っていない	第三者機関のことも踏まえて検討	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		授業アンケート実施後に各教員と面談を行っている。	科目ごとの改善策として、教授科目を変える手段しかない。	スキルアップするためのシステムを構築する。	
		記載責任者 職・氏名		学科長 松波 賢		

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	3	授業終了に伴い教務部が実施している	なし	なし	授業評価アンケート 授業評価フィードバック票
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		授業終了に伴い教務部が実施している	なし	なし	
	授業評価の実施において、関連業界と関連する授		なし	なし	なし	

	て、関連業界等との協力体制はあるか。		業科目は臨床実習であるが、実習終了後に実習指導者による自由記載での意見等を寄せてもらっている。			
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		授業評価の結果を担当教員が確認している。また他の教員による授業参観の導入を準備している	他の教員による授業参観を導入する。	授業シラバス及び教科書の内容についての情報共有を行う。	
記載責任者 職・氏名				学科長 永野忍		

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	2	教務部との連携による授業評価の体制を整備している。	授業評価の実施時期および評価内容の分析過程。	授業評価の効果的かつ効率的な体制づくりに関して教務部と連携を強化する。	授業評価アンケート 授業評価フィードバック票
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		学生による授業評価、教職員による授業参観・評価を実施している。	教職員による授業参観・評価におけるアンケート項目の修正。	教職員による授業参観・評価におけるアンケート項目の修正を含めた計画立案について協議する。	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		県協会や臨床実習施設との協力体制は構築されている。	臨床実習に対する授業評価の在り方。	臨床実習に対する授業評価に関して学科会議等で協議する。	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		授業評価結果は教員にフィードバックされ、授業改善に活用されている。	授業評価結果の授業改善への活用に関する計画と実践の把握。	授業計画に関する計画と実践の把握	
記載責任者 職・氏名				学科長補佐 中山仁		

看護学科
------

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	3	教務部との連携による授業評価の体制を整備している。	なし	なし	授業評価アンケート 授業評価フィードバック票
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		学生による授業評価を実施している。	授業評価の項目及び実施時期を検討する必要がある。	学科内で検討し、教務部と協議する。	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		実習施設との協力体制はできている。	各領域における評価項目の妥当性の検証	各領域の指導者会議でご意見を頂く。	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		活用している。	具体的に改善した内容の再評価	領域ごとに、改善すべき内容について検討する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	3	整備している。	なし。	なし。	授業評価アンケート 授業評価フィードバック票
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		実施している。	アンケート項目の改善。	改善できるよう計画を協議する。	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		特にない。	協力体制を構築する。	関連業界などとの緊密な連絡関係をとる。	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		活用している。	改善への活用に関する計画実施の確認。	改善点を実施。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4	授業評価を実施する体	4	学科開設以降継続して	特になし	特になし	授業評価アンケート

授業評価を実施しているか。	制を整備しているか。		授業評価を行っている。			授業評価フィードバック票
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		開設している全ての科目で実施している。	留学生に対する評価方法の検討が必要。	特になし	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		特になし	特になし	特になし	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		教員全員に授業評価をフィードバックして授業改善計画を提出している。	特になし	特になし	
		記載責任者 職・氏名		学科長 井 上 由紀子		

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	4	整備している。	特になし。	特になし。	授業評価アンケート 授業評価フィードバック票
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		年に 2 回、授業評価を実施している。	特になし。	特になし。	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		現場実習内において年 1 回の授業振り返りを実施している。	定期的な振り返りが必要となる。	実習先との定期的な連携が必要となる。	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		授業評価結果をもとに振り返り・面談を実施している。	定期的な面談を実施できる環境づくり。	日頃からのコミュニケーションを図っていく。	
		記載責任者 職・氏名		学科長 寺 本 敦 司		

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	4	整備している	なし	なし	授業評価アンケート 授業評価フィードバック

るか。	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		行っている	なし	なし	ク票
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		現時点ではない	関連業界が必要としていることを知る	関連業界との連携を検討する	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		活用している	実施は一部の教員のみである	非常勤講師も実施する	
			記載責任者 職・氏名		学科長 萩田 のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	4	学科開設以来授業評価を継続して行っている	なし	なし	授業評価アンケート 授業評価フィードバック票
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		行っている	なし	なし	
	授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。		特になし	なし	なし	
	教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		活用している	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長 高野徳一		

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-9-4 授業評価を実施しているか。	授業評価を実施する体制を整備しているか。	4	教務部が行っているアンケート	なし	継続	授業評価アンケート 授業評価フィードバック票
	学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか。		教務が行っているアンケート、もしくは個人面談の際に口頭で質問	本音を言わない可能性がある	授業を行っていない方に対応してもらう	

授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか。 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか。		当学科としてはない			
		教務部からのフィードバックを活用	文章だけではわからない	口頭で第三者に聞き取りをしてもらう	
		記載責任者 職・氏名		学科長 川上聖	

### 3-10 成績評価・単位認定等

#### 3-10-1

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	4	明示している	なし	なし	学則 学則施行細則 学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		会議にて基準の明確化を行っている。	なし	なし	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		運用している	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長補佐 社由洋		

### スポーツ柔整学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	4	明確に示している。	なし	なし	学則 学則施行細則 学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		会議で共有し統一している。	なし	なし	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		運用されている。	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名		学科長補佐 村岡 太介	

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	4	学生便覧に明記している	実技系科目などは評価が異なる可能性がある。	統一した評価ができるよう会議や打ち合わせを実施する。	
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		評価基準は学科内で統一し、試験後のフィードバック期間を設けている	評価方法は単位認定者に委ねており、客観性に欠ける部分がでてくる	各学期前に面談を行い、評価に客観性が保たれているかを確認する	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		既修得単位認定制度を設け、説明会も実施している。	既修得を認めたことにより勉強習慣付かないことがある。	説明内容の見直し	
			記載責任者 職・氏名		学科長 堀之内 貴一	

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	4	学生便覧に明記している	オリエンテーションの際に説明しているがどこまで理解しているかを把握できていない	全体のオリエンテーションだけではなく、個々の学生面談において対応する	学生便覧 シラバス 既修得認定資料
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		評価基準は学科内で統一し、試験後のフィードバック期間を設けている	評価方法は単位認定者に委ねており、客観性に欠ける部分がでてくる	各学期前に面談を行い、評価に客観性が保たれているかを確認する	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		既修得単位に関しては新年度前に説明会を行っている	既修得を認めたことにより勉強習慣付かないことがある。	説明内容の見直し	
				記載責任者 職・氏名	学科長 松波 賢	

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	学生に配布する学生便覧に学則や成績評価の基準等は明示している	明示をしているが、普段から意識させておくことが重要	学生便覧を使用した事由発生時における説明を行う	学則 学則施行細則 学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		学科内にて会議等を行っている	客観性・統一性の確保を図る	議事録等の供覧や管理を行う	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		学則に明示し、申請に対して教育課程及び授業シラバスとの適合性	なし	なし	

			の確認を行い、学科内にて情報共有を行っている。			
			記載責任者 職・氏名		学科長 永野忍	

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	成績評価、進級要件、卒業要件の基準は学生便覧に明示されている。	学生の成績評価基準等の理解度。	学生の成績評価基準に対する理解度促進のための方法論を協議する(特に臨床実習)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生便覧</li> <li>・学則</li> <li>・成績評価基準</li> <li>・既修得単位認定に関する規程</li> <li>・入学前学習課題</li> </ul>
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		学科会議、進級判定会議を開催し、成績評価基準の客観性・統一性の確保に取組んでいる。	不合格となった科目的再履修要件についての検討。	学科会議等において不合格科目の再履修要件について協議し、学科内にて統一見解を共有する。	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		新入生には入学前学習課題を課し、既修得単位認定の案内および認定の実施等を行っている。	入学前学習課題遂行状況と入学後成績の関連性。指定規則改正に伴う教育課程再編成と既修得単位認定科目の整合性。	入学前学習課題遂行状況と入学後成績の関連性に関する調査計画、教育課程再編成に伴う既修得単位認定科目の科目選定などについて協議する。	
			記載責任者 職・氏名		学科長補佐 中山仁	

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	学則に規定されており、学生便覧を使用して学生への説明を実施している。	実習中の学生に評価を伝達することが難しい	学生への通達の時期を早期に決定する。	学則 学則施行細則 学生便覧

成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		成績判定会議まで事前会議等を通して、客観性・統一性の確保に取組んでいる	客観性・統一性の確保の検討	評価の客観性について、協議する。	
入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		学則に規定されており、適切に運用されている。	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	学生便覧委明示している。	なし。	なし。	学則 学則施行細則 学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		学科会議にて取り組んでいる。	客観性・統一性を図る必要がある。	会議の充実化。	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		実施している。	なし。	なし。	
		記載責任者 職・氏名		学科長 藤幸枝		

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1	成績評価の基準について	4	学生便覧に学則規定と	特になし	特になし	学則

成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	て、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。		して、またシラバスにおいても各科目的評価基準を明示している。			学則施行細則 学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		成績については学科会議を経て、年度末に進級・卒業判定会議にて審議を行っている。	特になし	特になし	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		入学前の履修等については学則や規定に基づき、会議において協議し校長の承諾を経て認定を行っている。	特になし	特になし	
			記載責任者 職・氏名	学科長 井 上 由紀子		

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	4	明示している。	特になし。	特になし。	学則 学則施行細則 学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		学生便覧に記載されている内容で評価を実施している。	成績評価については、担当講師に一任している。	担当講師との情報共有を図っていく。	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		学生便覧に記載されている。	なし。	なし。	
			記載責任者 職・氏名	学科長 寺 本 敦 司		

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	明確であり、学生に明示している	なし	なし	学則 学則施行細則 学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		担当教員との連携を取り取り組んでいる	なし	なし	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		運用している	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 萩田 のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	オリエンテーションで明示している	なし	なし	学則 学則施行細則 学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		学科内で会議を設けている	なし	なし	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		学習証明書を提出させている	なし	なし	

	記載責任者 職・氏名	学科長 高野徳一
--	------------	----------

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか。	3	学生便覧について、詳しく説明をしている	なし	なし	学則 学則施行細則 学生便覧
	成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか。		非常勤講師の方々とも打ち合わせをし、統一性をはかっている	なし	なし	
	入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか。		定期的に説明を行っている	理解できない学生がいる（日本語能力が低いため）	母国語での対応	
				記載責任者 職・氏名	学科長 川上聖	

3-10-2
--------

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	1	研究業績等の成果把握はなお不十分である。	学生評価として確立することが重要である。	なお検討が必要	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科
----------

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	4	しっかりと把握している。	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 村岡太介	

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	3	卒業時に学内表彰をしている。	基準が明文化されていない。	基準を文書化する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 堀之内貴一	

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	3	卒業時に学内表彰をしている。	基準が明文化されていない。	基準を文書化する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 松波賢	

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	3	各学年にて履修に付随する発表の機会を設けている	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 永野忍	

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	3	専門および関連領域の学会・研究会への学生参加を促している（福岡県作業療法学会、日本地域作業療法研究大会に学生参加）。	在校生の学会・研究会への参加意識および参加状況。	教育課程および授業計画の検討に、学会・研究会参加と授業のリンク等を含めて協議する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 中山 仁	

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	—	該当なし			
				記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	2	不十分である。	学外活動への取組意欲に乏しい。	積極的に学外活動への取組を行う。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2	在校生のコンテスト参	3	福岡県介護福祉士養成	留学生に対する理解が	継続して働きかけを行	

作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		施設学生の活動への参加、介護福祉士会の介護コンテストへの応募などを勧めている。	必要。	う。	
記載責任者 職・氏名				学科長 井 上 由紀子		

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	1	特になし。	特になし。	特になし。	
記載責任者 職・氏名				学科長 寺 本 敦 司		

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	3	課外活動において「お客様アンケート」にて個別の評価は把握している	アンケート結果に対するその後の行動・改善	振り返りをもとに個別に目標設定を行いチェックする	
記載責任者 職・氏名				学科長 萩田 のり子		

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	3	スピーチ大会、漢字コンテストを行っている	なし	なし	
記載責任者 職・氏名				学科長 高野 徳一		

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。	—	該当なし			
				記載責任者 職・氏名	学科長 川上聖	

### 3-11 資格・免許の取得の指導

3-11-1

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	4	取得目標としている資格・免許の内容その意義について明確に表現されている。	なし	なし	学生便覧 学校案内パンフレット
	資格・免許の取得に関する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		取得に関する授業科目は明確にされている。特別講座の開設は適宜に実施している。	特になし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にし	4	明確に示している。	なし	なし	学生便覧 学校案内パンフレット

に位置づけているか。	ているか。		掲示板やメールを活用し明確に示している。	なし	なし	
	資格・免許の取得に関する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。					
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 村岡太介	

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	3	各教員が授業等で体験をふまえて伝えていく。	具体的にどの科目で、どのタイミングでという取り決めがない。	会議等で内容を決める。	
	資格・免許の取得に関する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		国家試験対策委員を設定し、対策授業等を実施している。	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なる。	学力が及ばない学生に対しては個別に対応する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 堀之内貴一	

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	3	各教員が授業等で体験をふまえて伝えていく。	具体的にどの科目で、どのタイミングでという取り決めがない。	会議等で内容を決める。	
	資格・免許の取得に関する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		国家試験対策委員を設定し、対策授業等を実施している。	学生間での学力差が生じ、到達レベルが個人によって異なる。	学力が及ばない学生に対しては個別に対応する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 松波賢	

理学療法学科
--------

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	4	各授業科目にて明確に示している	なし	なし	学生便覧 学校案内パンフレット
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		各授業科目にて明確に示している	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 永野 忍	

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	4	カリキュラムポリシーを文章化している。	指定規則カリキュラム改正内容に対する整合性の検討。	学科内で、定期的見直しと情報共有化を図る。	学生便覧 学校案内パンフレット
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		カリキュラムポリシーに対応する授業科目及び試験に向けた対策授業計画を作成している。	国家受験資格以外の資格・免許の取得(福祉住環境コーディネーター検定Ⅱ級、メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種、健康スポーツセラピスト知識検定：初級と一般)に関する情報共有化を図る。	学科専任教員内での資格・免許の取得に関連する情報	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 中山 仁	

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にし	4	明確にしている。	なし	なし	学生便覧 学校案内パンフレット

に位置づけているか。	ているか。		明確にしている。	なし	なし	
	資格・免許の取得に関する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。					
				記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	3	明確にしている。	臨床の場での経験の話しに統一性がない。	客観的にする。	学生便覧 学校案内パンフレット
	資格・免許の取得に関する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		明確にしている。	セミナーの実施に対し不十分なところがある。	セミナーの見直しが必要。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	4	学生便覧の他、実習要綱等で明確にしている。	特になし	特になし	学生便覧 学校案内パンフレット
	資格・免許の取得に関する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		指定養成施設であるのでカリキュラム全体が資格取得の科目で構成されている。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 井上由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科
------------------------------

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	4	明確にしている。	資格の必要性について偏った考え方の学生がいる。	幅広い視野を持った考え方をさせていく。	学生便覧 学校案内パンフレット
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		明確にしている。	特になし。	特になし。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 寺本 敦司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	3	明確にしている	なし	なし	学生便覧 学校案内パンフレット
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		明確にしている	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 薩田 のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	3	進学や就職においての必要性を説明している	学生の意識の差がある	全体に対しては授業で、個人に対しては面談を通していく	
	資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		授業全体が関連項目のため特別明確化していない	なし	なし	

	記載責任者 職・氏名	学科長 高野徳一
--	------------	----------

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか。	取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか。	4	事あるごとに説明している	学生の資格取得にむけてのモチベーションが低い	資格の必要性を説く	学生便覧 学校案内パンフレット
	資格・免許の取得に関する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか。		しているし、希望者に関しては補講を行っている	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 川上聖	

3-11-2
--------

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	4	免許の取得については指導体制は整備されている。	学力の向上には本人の努力も必要。	なし	学則施行細則 聴講生制度について 聴講生証
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		不合格者は学校で再度教育を受けるように指導体制をスタートさせた。	不合格者が登校せず、制度が機能していない。	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2	資格・免許の取得につい	4	チームを組んで整備し	なし	なし	学則施行細則

資格・免許取得の指導体制はあるか。	て、指導体制を整備しているか。		ている。			聴講生制度について 聴講生証
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		整備している。	出席管理、指導が難しい。	出席率を参加条件に盛り込む等の対策が必要	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 村岡太介	

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	4	国家試験対策委員会を設定し、対策授業・個別対応も実施している。	個別にすることで協力体制がしにくくなっている。	協力体制の構築	
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		不合格者は聴講生制度などを設けている。	卒業の指導は卒業任せになっている。	卒後の指導体制について伝える場を検討	
				記載責任者 職・氏名	学科長 堀之内貴一	

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	4	国家試験対策委員会を設定し、対策授業・個別対応も実施している。	個別にすることで協力体制がしにくくなっている。	協力体制の構築	
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		不合格者は聴講生制度などを設けている。	卒業の指導は卒業任せになっている。	卒後の指導体制について伝える場を検討	
				記載責任者 職・氏名	学科長 松波賢	

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制	資格・免許の取得について、指導体制を整備して	4	資格取得に向けて教員を専属で配置し指導し	成績不良者への対応	随時的な履修状況の把握を行うために面談を	学則施行細則 聴講生制度について

制はあるか。	いるか。		ている		行う	聴講生証
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		資格取得に向けての情報提供をおこなっている	情報共有状況の把握	随時的に連絡を取り状況の確認を行い、面談を行う	
				記載責任者 職・氏名	学科長 永野 忍	

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	2	作業療法士の国家試験対策を計画している。別のメンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種や福祉住宅環境コーディネーターの資格取得に向けた授業で対策を計画している。	学科内で、2019年度にクラス全体と個別の対策で検討する予定であり、未実施。	学科内で、成績結果を分析し、学生指導情報の共有化を図る。	学則施行細則 聴講生制度について 聴講生証
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		作業療法士の国家試験は、2019年度より実施されるので、実働はありませんが、不合格者が出了場合の本校の受講制度の利用は計画している。	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 中山仁	

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	3	就職担当、国試担当を明確にし、指導している。また、教員全体で資格・免許取得に向けてゼミ制度を設けて、個別にも指導をしてい	教員に係る負担と教員の能力差	学科会議を通して、担任及びゼミ担当より情報提供を行って共有化を図る。	学則施行細則 聴講生制度について 聴講生証

		る。			
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。	不合格者については、聴講生制度や学習指導、国試模試の受講など、個別対応を充実させている。	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	2	整備しているが一部不十分なところがある。	指導体制(担当制)を見直す。	教員の確保。	学則施行細則 聴講生制度について 聴講生証
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		不合格者を出していない。	なし。	なし。	
			記載責任者 職・氏名	学科長 藤幸枝		

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	4	介護福祉士の資格取得を目指して、補習授業などの体制を整えている。	留学生の日本語力を高めることが課題。	介護の日本語などの対応を行っている。	学則施行細則 聴講生制度について 聴講生証
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		経過措置として卒業によって資格登録はできるが、国試受験で不合格者は対策講座を開講している。	特になし	特になし	
			記載責任者 職・氏名	学科長 井上由紀子		

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科
------------------------------

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	4	2年間かけて指導体制を整備している。	特になし。	特になし。	学則施行細則 聴講生制度について 聴講生証
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		整備している。	該当学生への告知方法について。	学校のHP、SNSの有効活用。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 寺本敦司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	4	整備している	なし	なし	学則施行細則 聴講生制度について 聴講生証
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		整備している	個々の理解度に合わせた補講の役割分担	理解度に合わせた補講内容と役割分担	
				記載責任者 職・氏名	学科長 萩田のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	3	対策授業を行っている	クラス内で受験するレベルが異なることがある	可能な限り分けて対策を行う	
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		次回受験のための対策と再度意識づけを行っている	不合格後の原因の分析が不十分	不合格後の原因の分析と復習もしっかりとさせていく	
				記載責任者 職・氏名	学科長 高野徳一	

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料

3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか。	4	資格取得を目的とした授業の実施を行っている。	日本語能力に差があるため、授業だけでは時間が不足しがちである。	希望者に対する補講を実施する。	学則施行細則 聴講生制度について 聴講生証
	不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか。		不合格者に対しては再受験を目的とした補講の実施を行っているが、卒後の指導にまで至っていない。	再受験者の成績低迷。	再受験者に対する補講の強化。	
		記載責任者 職・氏名		学科長 川上聖		

### 3-12 教員・教員組織

#### 3-12-1

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	非常勤講師が外傷や、画像診断に関する講義で補えている。	常勤が指導できるよう勉強会に参加している。	日々補助で参加して能力を高めていく。	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		教員に必要な資格等は明示されている。	なし	現状のままで行きたい	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		知識、技術レベルは関連業界レベルに適合している。	なし	なし	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		採用人材の確保は関連業界(付属接骨院等)との連携がある。	実技参加で能力の向上を図りたい	なし	
	教員の採用計画・配置計		教員の採用、配置計画	なし	なし	

	画を定めているか。		は隨時必要において進める。			
	専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		年齢構成は隔たりがないようにその経験もいれて考査する必要がある。	これからも向上できるようにしていく。	なし	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		募集、採用、昇格措置等についてはやや明確にされてきた。	現状でいきたい。	なし	
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		教員一人当たりの授業時数、学生数等は把握されている。	なし	なし	
記載責任者 職・氏名				学科長補佐 社由洋		

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	4	明確である。	なし	なし	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		明示し、確認している。	なし	なし	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		適合している。	なし	なし	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		連携している。	なし	なし	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		定めている。	なし	なし	
	専任・兼任(非常勤)、年		明確に示している。	なし	なし	

小項目	齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。					
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		定めている。	なし	なし	
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		把握している。	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 村岡太介	

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	担当科目を決定する前に面談を実施し、希望や得手不得手を考慮し、決定している。	同一科目を得意とする教員が重なる場合がある。	教員数を増やす。	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		採用時に免許のコピーや履歴書を確認している。	確認だけで終わっている。	求める内容を明確にする。	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		適合している。	業界のレベルを詳細に把握できていない。	学外の聴講等	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		していない。	人材確保に関し、業界の方と話などをしたことがない。	業界の方と話をする機会などを設ける。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		定めていない。	年間計画も踏まえて事前に必要となる採用数を把握する	年間計画も踏まえて事前に必要となる採用数を把握する	
	専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示している		していない。	採用基準を明確にする	採用基準を明確する	

か。 教員の募集、採用手續、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		定めていない。	採用基準を明確にする	採用基準を明確する	
		時間割や学事日程を組む上で確認、把握している。	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長 堀之内 貴一	

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	担当科目を決定する前に面談を実施し、希望や得手不得手を考慮し、決定している。	同一科目得意とする教員が重なる場合がある。	教員数を増やす。	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		採用時に免許のコピーや履歴書を確認している。	確認だけで終わっている。	求める内容を明確にする。	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		学科内でそれぞれの教員の得手不得手を把握している	業界のレベルが不明確	学外の聴講等	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		していない。	人材確保に関し、業界の方と話などをしたことがない。	業界の方と話をする機会などを設ける。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		定めていない。	年間計画も踏まえて事前に必要となる採用数を把握する	年間計画も踏まえて事前に必要となる採用数を把握する	
	専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		していない。	採用基準を明確にする	採用基準を明確する	
	教員の募集、採用手続、		定めていない。	採用基準を明確にする	採用基準を明確する	

	昇格措置等について規程等で明確に定めているか。					
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		時間割や学事日程を組む上で確認、把握している。	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長	松 波 賢

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	4	担当予定の教員の専門性と授業科目の内容とを照合したうえで教育に関心の高い人材を登用している 教員名簿の管理を行っている	なし	なし	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		担当予定の教員の専門性と授業科目の内容とを照合し、必要な資格等については免許証の写し等の提出をもらっている。 教員名簿の管理を行っている	なし	なし	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		適合している	なし	なし	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		連携している	なし	なし	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		法律に定められている専任教員数を確保している。	なし	なし	

専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。 教員の募集、採用手續、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		シラバスを通して明示している。	なし	なし	
		理学療法学科としてはこの件については対処していない。法人本部の範疇となる。	なし	なし	
		把握している	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長 永野忍	

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	教員に求める資格・要件である専門性や技術・技能を高めるため、理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設等教員講習会講習会を修了し、未修了の教員を計画的に受講する計画立案あり。国家資格・免許取得を目標とする学科なので、授業を担当する要件としての当該資格や関連資格を有する義務は確保できている。	教員講習会未修了の教員がいる。	年1回の研修へ計画的に参加し、全教員が終了することを計画。	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		授業科目に求められる資格等を年度ごとに策定し、明示している。	教員に求める必要資格の明示が不十分。 授業科目に求められる資格取得以外にも専門分野の学術研鑽や授業	学科内での協議を定期的に実施し、アドミッションポリシー やカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの意	

			を通じて学生の人間性を涵養する経験不足の課題あり。	識化を図り、教員の質の向上や保持につとめ、より良い最適な教育ができるよう計画する。
教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		医療人に求められるカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの以外にも専門分野の学術研鑽や授業を通じ経験を積んでいる。	資格以外の要件に該当する個別性の課題。授業経験のない教員が多く、3年次以降の授業科目についての情報収集や取り組みの構築化が不十分。	個別性の課題が解決できない場合の対策について、学科以外の学校全体での規定など協議する。経験のある教員の指導を徹底し、また教務部との連携を構築化し、学生に不利益が生じないように協議する。
教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		日本作業療法士協会及び福岡県作業療法協会との情報交換の構築化及び連携している。	教員採用手続きは、規程等で明確化し適切に運用していると思われるが、内容を把握していない。教員は専任・兼任(非常勤)の配分についての設置基準等に基づき適切に採用を実施していると思われるが、内容を把握していない。	教員採用に関する教務部との連携や計画的後方の取り組みや、臨時に発生した教員採用による計画の進め方を関係機関で協議する。
教員の採用計画・配置計画を定めているか。		H30年度に、2名採用計画あり。中途での採用や配置について、計画的遂行はできている。採用前の配置計画についても、担当科目の準備及び実施できる体制や受け入れる教員の（時間割調整など）、新人教育の計画も準備	教員一人あたりの授業時数を考慮して、人事配置を心掛けているが、教務以外の教員が把握できていない。また作業療法学科教員の定数基準に合わせた計画的導入時期や選出に基準が不明瞭であり、学校間での連携が確立	学科内での協議を年度前に定期的に実施し、教員間でのバランスも含め試行する。非常勤講師の確保に向けた取り組みの強化が必要。

		している。	していない課題あり。全国的に発達障害分野に携わる有資格者が少ないことや、発達障害を専門とした教員が少ないので、専門的に臨床で評価や治療で携わった教員が不在。個人の教員経験の有無や取り組みへの意識の差異により配置ができない課題あり。	
専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		校舎内に教員構成を明示する掲示はない。	学生に対して、新入生オリエンテーション時の教員紹介のみで、教務室に教員氏名の掲示もない。教務室入口(廊下側)などに学生や来校者が教員を把握できるように明示する検討が必要。また、H30年度の教員の平均年齢は、44.25歳。30～50歳代の男性で構成。OT経験年数は基準をクリア。H30年度に女性教員1名配置。1名退職後すぐに1名教員配置。勤務予定が計画的に遂行。教育経験が、10年以上は1名。他の教員は、3年未満。	学校で統一した教員名の掲示の仕方など取り決めの統一性が必要。
教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		学科内での明確な定めについて把握していない。		

	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		年度ごとに担当科目及び教員配置を計画的に作成。現状把握と学科全体での平均時間の確認を実施。学生数に対する教員配置も授業内容を検討。	H29 年度は 1 期生のみで、H30 年度より 2 期生も含め授業を展開。現在 3 期生も加わり、教員の個人の力量などでの授業や業務のバランスを調整する必要がある。	学科内で協議。	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 中山 仁	

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	臨床経験や教育経験を踏まえて、授業科目の決定をしている。また、各教員に面談を実施し、科目担当が可能かどうか確認して決定している。	教員の中には、教員講習会未修了者や教育経験がない者がいる。	できるだけ早期に、教員養成講習会を受講させる。また通信制大学での資格取得も薦める。	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		教員に求める資格については、確認している。	授業科目を担当するために必要な資格の詳細は不十分である。	教員の質の向上を図るために学習の支援を行う。	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		関連部署や実習施設等との会議を通して、関連業界等のレベルについて、情報収集している。	教員の知識、技術、技能の能力の確認が難しい。	学科内の会議での検討、実習先での会議での情報の共有化を図る。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		連携していない。	教員採用について、関連業界等と連携することが難しい。	会議を通して、情報の共有化を図る。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		教員数が不足していることから、年間を通して、採用に努めている。	教員養成講習会を受講後の教員の確保	採用・配置計画の早期の立案を行う。	
	専任・兼任(非常勤)、年		特には、明示していない	なし	なし	

齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。 教員の募集、採用手續、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		い。			
		該当なし	なし	なし	
		把握している。	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	2	まだ十分とは言えない。	特になし。	補助を行い能力を高めていく。	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		明示している。	なし。	なし。	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		まだ十分とは言えない。	関連業界などとの連携が必要。	関連業界との機会を設ける。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		まだ十分とは言えない。	情報共有。	情報共有できる場を設ける。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		まだ十分とは言えない。	なし。	なし。	
	専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		明示していない。	なし。	なし。	

教員の募集、採用手續、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		定めていない。	なし。	なし。	
		カリキュラムで把握している。	なし。	なし。	
		記載責任者 職・氏名		学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	4	指定規則に則って、教員条件を満たす教員を指定科目に配置している。	特になし	特になし	介護福祉士養成施設指定規則第5条
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		教員資格・要件を明示し、毎年県への報告を行っている。(介護福祉士法令第5条報告)	特になし	特になし	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		各々職能団体に所属し、職能団体の主催する研修を受講。また介護福祉士養成施設協議会の教員研修会に参加	特になし	特になし	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		関連する団体に依頼したり推薦を求めることがある。	特になし	特になし	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		特になし	特になし	特になし	
	専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		ホームページ等にて明示している。	特になし	特になし	
	教員の募集、採用手續、昇格措置等について規		特になし	特になし	特になし	

程等で明確に定めているか。 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		講義分担表を作成して管理している。				
			特になし	特になし		
			記載責任者 職・氏名		学科長 井 上 由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	4	各資格認定団体が示す教員要件をクリアしている。	特になし。	特になし。	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		確認している。	特になし。	特になし。	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		研修などに参加して研鑽に努めている。	業務との調整が必要となる。	計画性のある学事日程の作成が必要である。	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		連携している。	特になし。	特になし。	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		定めている。	一部、教員配置が難しい科目がある。	業界との連携が必要となる。	
	専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		明示されている。	特になし。	特になし。	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		計画中である。	規程の作成の妥当性を検討しなければならない。	関係部署との連携が必要となる。	
	教員一人当たりの授業		把握している。	特になし。	特になし。	

	時数、学生数等を把握しているか。					
				記載責任者 職・氏名	学科長	寺 本 敦 司

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	明確である	なし	なし	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		確認している	なし	なし	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		適合している	なし	なし	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		連携が取れている	なし	なし	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		定めている	なし	なし	
	専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		明示していない			
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		定めていない			
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		把握している			

	記載責任者 職・氏名	学科長 萩 田 のり子
--	------------	-------------

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員 を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	日本語教師養成講座履修、日本語教育能力検定の有無を確認	なし	なし	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		該当しない	なし	なし	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		全体的に経験年数が短いが、ほぼ適合している	知識、技術のチェックが十分でない	各教員の技能を確認し、指導経験の長い教員による指導を行う	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		該当しない	なし	なし	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		該当しない	なし	なし	
	専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		該当しない	なし	なし	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		該当しない	なし	なし	
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		している	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 高野徳一	

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか。	3	教員の能力・資質等を確認している。	授業科目に応じた教員に求める能力・資質等が不明瞭なものがある。	授業科目ごとに教員に求める能力・資質等を明瞭にする。	
	授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか。		している	なし	なし	
	教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか。		適合している	なし	企業等との連携をさらに強化する	
	教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか。		している	なし	なし	
	教員の採用計画・配置計画を定めているか。		該当しない	なし	なし	
	専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか。		していない	なし	なし	
	教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか。		該当しない	なし	なし	
	教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか。		している	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 川上聖	

3-12-2

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	授業評価アンケートを基に評価している。	特になし	生徒の学力向上の実績では評価できるか。	教職員研修規程 学外研修にかかる費用負担に関する内規 学外研修にかかる費用負担に関する内規
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		年に1度学校協会主催の研修会に参加している。	特になし	特になし	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		関連業界等から講師を招き、教員研修を行っている。	特になし	なし	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		特に行っていない。	特になし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	4	把握・評価できている。	なし	なし	教職員研修規程 学外研修にかかる費用負担に関する内規 学外研修にかかる費用負担に関する内規
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		適切である。	なし	なし	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		教員研修会に参加している。	なし	なし	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		支援できている。	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 村岡太介	

鍼灸学科
------

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	学生評価を基に面談等を行っている。	学生からの評価しかなない。	教員間の評価制度を設ける。	
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		研修会に参加する教員が増えてきている。	研修会の内容をシェアできていない。	研修会の内容をシェアする場を設ける。	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		毎年、複数の教員が学会に参加し、資質向上に努めている。	研修会の内容をシェアできていない。	研修会の内容をシェアする場を設ける。	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		年に数回、自己啓発セミナーなどに参加している。	日程等と参加人数、学事日程の関係上参加できないことが多い。	参加できるように計画を組む。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 堀之内 貴一	

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	学生評価を基に面談等を行っている。	学生からの評価しかなない。	教員間の評価制度を設ける。	
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		研修会に参加する教員が増えてきている。	研修会の内容をシェアできていない。	研修会の内容をシェアする場を設ける。	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		毎年、複数の教員が学会に参加し、資質向上に努めている。	研修会の内容をシェアできていない。	研修会の内容をシェアする場を設ける。	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		年に数回、自己啓発セミナーなどに参加している。	日程等と参加人数、学事日程の関係上参加できないことが多い。	参加できるように計画を組む。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 松波 賢	

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料

3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	4	授業終了時に授業評価を行っている	なし	なし	教職員研修規程 学外研修にかかる費用負担に関する内規 学外研修にかかる費用負担に関する内規
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		関連業界にて行われている研修会へ参加している	なし	なし	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		研修に参加及び研究に取り組んでいる	なし	なし	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		研修に参加及び研究に取り組んでいる	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 永野 忍	

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	2	授業担当及び業務分掌を作成・実施。教員の専門性について、教員が各々で関連業界等での実務を経験し、教員になってからも専門的な分野の情報収集に取り組み、最新の知識や技術ができるように積極的に実施。客観的な評価として、学生による授業評価のみ。教員の専門性を向上させるための現状の能力等を適切に評価する指標がなく、改善することが明確であり、その点を明確にした上で、対象となる教員へ指導しても	学科内での客観的な指標はなく、学校全体での取り組みである学生からの授業評価の共有化があるが、学生からの意見などは各々で管理し、情報共有できていない。実際の教育経験が1年未満である教員が多いため、経験者による指導や校務分掌に基づいた学科内全体で支援する体制づくりを求めて、コミュニケーションにおける問題などあり、適正などの評価が必要。	学科内で統一した課題への取り組みに関して、情報共有し、指導や校務分掌に基づいた業務の遂行などの改善と、学科内全体で支援する体制づくりが必要。	教職員研修規程 学外研修にかかる費用負担に関する内規 学外研修にかかる費用負担に関する内規

			改善できない課題あり。適宜研修等による育成については、学科行事を踏まえ、計画的に遂行できるよう学科長からの指示あり。教員の教授力（インストラクションスキル）について、学科全体の取り組みの意識が不十分で、H29年度実施した授業観察を、今後も積極的に取り入れ、他学科からの意見を取り入れる体制が求まる現状。		
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		H29年度は、各々で必要である研修を選択し、参加。H30年度は、計画的に研修等へ参加。	授業や学校行事の運営についての意識が、個人によって差異があることで、学校不在になることによる他教員の業務負担がある。	今後も、教員の専門性の質が低下しないように、研修内容について情報を共有し、計画的に配慮する必要がある。
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		ディプロマポリシーが意識化され、教員ごとに実践的な職業教育機関との連携を実施。	優先的に誰が教員研修に参加するかという基準はない。	実務経験を基盤とした専門性に優れた教員の資質の向上を目的に、学科全体で関連業界等との連携を積極的に行うことを継続する。
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		年間1回の研修参加について、学校からの補助が確立されている。授業変更などにより、学生への影響として不利益にならないよう取り組む。	H29年度に研修に参加するできた教員とできなかった教員の差がある。平均した回数は、年間2回以上あり、不定期であることから、個人の判断で研修参加を計画し、実施する事に	教員は、学生の授業に影響がないことを計画的に準備し、事前に他の教員への相談を兼ねて出張などの計画を立てて構築する必要あり。

				よって伴う、業務の不履行や連絡ができないことでの調整に時間が終われるといったコミュニケーションの課題などあり。相談シートや稟議書申請に時間を要すこと。		
記載責任者 職・氏名				学科長補佐 中山 仁		

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	2	年に1回、学生による授業アンケートを行っている。	教員の教育力に差がある。	定期的な面談と各教員に対する授業評価の実施	教職員研修規程 学外研修にかかる費用負担に関する内規 学外研修にかかる費用負担に関する内規
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		教員養成講習会の研修計画及び各領域に関連した学会・講習会への参加を推奨している。	講義や実習指導等で学会・講習会等への参加ができない。	実習指導のありかたを検討。研修計画を早期に立案し、実習指導等との調整を図る。	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		研修については、調整を行い、極力参加するようしている。	研修・研究へ取り組むための時間の確保が必要	研修・研究に関する計画を立案し取り組む。	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		学会や研修会・学習会に関する情報提供を行ない、参加を推奨している。	積極的に取り組む教員が少ない。	主体的に取り組めるように、業務の改善を行う。	
記載責任者 職・氏名				学科長 村山由起子		

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	授業アンケートをもとに把握・評価している。	教員の力量を評価する。	定期的な面談。	教職員研修規程 学外研修にかかる費用負担に関する内規 学外研修にかかる費用負担に関する内規
	教員の資質向上のため		運用している。	積極的に取組むための	計画の立案と実施。	

の研修計画を定め、適切に運用しているか。 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。			時間の確保が必要。		学外研修にかかる費用負担に関する内規
		研修会やセミナーに参加している。	研究への取り組み。	体制を整える。	
		研修会や学会などの情報提供や情報共有。	積極的に取組むための時間の確保が必要。	計画の立案と実施。	
		記載責任者 職・氏名		学科長 藤幸枝	

#### 生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	シラバスやコマシラバス等によって把握評価している。	教員によって差がある。	公開授業を実施して改善点を見出す。	教職員研修規程 学外研修にかかる費用負担に関する内規 学外研修にかかる費用負担に関する内規
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		研修計画によって研修機会の確保に努めている。	講義や実習等の関係で、参加できない学会や研修会が多い。	参加しやすい状況づくりを進める。	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		職能団体の主催する研修会等に積極的に参加している。	領域を超えた研修機会が必要。	関連業界と共同で研修体制を構築する。	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		教員の学外学会への参加や発表を奨励している。	学会の開催時期等の情報が得にくいものがある。	関連する学会にするなど研修機会を増やす。	
			記載責任者 職・氏名		学科長 井上由紀子	

#### アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	授業評価アンケートによって把握している。	アンケート項目の再検討が必要である。	授業運営に適したアンケート項目の検討が必要である。	教職員研修規程 学外研修にかかる費用負担に関する内規

教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		研修計画は、立案されていない。	研修日程の事前把握が必要となる。	学事日程の調整、業務量の再検討が必要である。	学外研修にかかる費用負担に関する内規
		取り組めている。	業務との調整が必要である。	学事日程の調整、業務量の再検討が必要である。	
		支援している。	業務との調整が必要である。	学事日程の調整、業務量の再検討が必要である。	
		記載責任者 職・氏名		学科長 寺 本 敦 司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	専門性は長けている授業評価アンケートを実施している	なし	評価に対する改善がされたか確認が必要である	教職員研修規程 学外研修にかかる費用負担に関する内規 学外研修にかかる費用負担に関する内規
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		年間計画をもとに研修には積極的に参加している	なし	なし	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		関連業界の研修は可能な範囲で参加している	年間計画がない研修会は都合がつかない場合が多い	教員間のフォローバック体制を構築する	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		行っている	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長 萩 田 のり子		

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	特別評価はしていない	各教員の教授力の把握不足	教室入り、確認しフィードバックをする、学外研修にかかる費用	教職員研修規程 学外研修にかかる費用負担に関する内規

組みを行っているか。	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。	3			生からの聞き取りを行う	負担に関する内規 学外研修にかかる費用 負担に関する内規
			している	なし	なし	
			している	なし	なし	
			自己啓発研修などの参加を促している	なし	なし	
記載責任者 職・氏名			学科長 高野徳一			

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか。	教員の専門性、教授力を把握・評価しているか。	3	授業中に見学に行っている	常勤が少ないため、時間がない	常勤を増やしてもらう	教職員研修規程 学外研修にかかる費用 負担に関する内規 学外研修にかかる費用 負担に関する内規
	教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか。		している	なし	継続する事	
	関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか。		取り組んでいる	なし	継続すること	
	教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか。		研修などには参加できるよう、調整している	常勤が二人のため、参加できないことが多い	常勤を増やす	
記載責任者 職・氏名			学科長 川上聖			

3-12-3

柔道整復学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	4	分野毎の必要な教員組織体制は整備されている。	特にない	なし	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		教員組織における業務分担は明確に定めている。	なし	なし	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		教員間で協力しながら、講義を進行できている。	なし	なし	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		授業、教育方法の改善は、学科での模擬授業を行い、評価する取り組みがある。	特になし	なし	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		教員間の連携、協力体制は構築されている。	現状で行っていく	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	4	整備されている。	なし	なし	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		定められている。	なし	なし	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		しっかり構築されている。	なし	なし	
	授業内容・教育方法の改		組織的に取り組んでい	なし	なし	

	善に関する組織的な取組があるか。		る。			
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		話、メール、対話により構築されている。	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐	村岡太介

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	組織化できている。	組織のスムーズな運営ができない。	定期的に会議等で課題を明確にする。	
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		分担等できてはいるが明確ではない。	規定などの明確化	職務分掌図を作成し、明確に定める。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		連携は取れているがどの程度なのは不明。	具体化できていない。	定期的に会議・確認を行う。	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		なし。	組織ができていない。	授業内容や教育方法の改善に関する組織化を図る。	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		構築している。	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長	堀之内貴一

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	ある程度分野毎に組織化しているが明確ではない。	明確な組織化。	明確な組織化を図るために会議等を実施する。	
	教員組織における業務		分担等できてはいるが	工程などマニュアル化	職務分掌図を作成し、	

分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。	まだシステム化まで至らない。 連携は取れているがどの程度なのは不明。 なし。 協力体制はできている。	が必要	明確に定める。	
		連携の取り方が不明確	年度末に検討会を行う。	
		組織ができていない。	授業内容や教育方法の改善に関する組織化を図る。	
		協力体制もさらに向上して、より良いものに作り上げる必要がある	協力体制もさらに向上して、より良いものに作り上げる必要がある	
		記載責任者 職・氏名	学科長 松波 賢	

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	4	各種分野において委員会設置を行っている	なし	なし	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		業務分掌にて明確にしている	なし	なし	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		年度前に次年度の授業シラバスを供覧し、関連の深い科目的担当教員間での教授内容の再確認等を行っている	なし	なし	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		授業評価をもとに教員へフィードバックを行っている フィードバック後の検証を行っている	なし	なし	
	専任・兼任（非常勤）教		年度前に次年度の授業	なし	なし	

	員間の連携・協力体制を構築しているか。		シラバスを供覧し、関連の深い科目の担当教員間での教授内容の再確認等を行っている。			
記載責任者 職・氏名				学科長 永野忍		

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	2	区分ごとに教育上の基本組織を配置。	組織体制を遂行できない教員が存在する。	学科全体で協議し、必要であれば、学校全体で検討していく。	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		業務分担や責任体制を規程等に明確に定めている。	組織体制を遂行できない教員が存在する。	学科全体で協議し、必要であれば、学校全体で検討していく。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		学科長を中心とした教育及び管理運営面で、他の教職員と協力し、教育の質を高める努力をしている。	授業科目を遂行できない教員が存在する。	学科全体で協議し、必要であれば、学校全体で検討していく。 学科内で、授業科目担当間の変更に対しても学科教務を準備し、連携・協力体制を構築。	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組は不十分。	教育経験がある教員からの個別指導により授業内容や教育方法について改善を試みるが、職員間のコミュニケーション不足がある。	学科全体で協議し、必要であれば、学校全体で検討していく。	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		専任教員間の連携及び兼任は現段階で調整できている。非常勤教員との連携体制も、担当者との間では構築できている。	3年次カリキュラムが計画的に実施できるよう計画を構築中。 学科教務(担当者)以外のOT教員との情報共有化ができている。	学科内での情報共有や協議を定期的に実施し、教員間での協力体制の強化を試行する。	

			1年次の基本的な知識を学ぶカリキュラムが終了。2年次の専門基礎科目や専門科目に対する準備や校務分掌により学生や広報、就職、国家試験対策においては、カリキュラムポリシーに対応するマニュアルの作成を編成し実施。また、ディプロマポリシーに合わせて、実習や3年次の国家試験対策や就職などに向けた専門的知識や技能の獲得を可能にするための準備計画段階。			
記載責任者 職・氏名				学科長補佐 中山 仁		

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	2	専門分野については、各領域のリーダーを決めて体制づくりをしている。	領域間の体制整備が弱い。	領域間の会議を持ち、体制を強化する。	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		教員組織における業務分担は定めている。	責任体制について、明確さに欠ける。	責任体制について、協議を行い、明確にする。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		連携・協力体制を構築している。	なし	なし	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		組織的な取り組みはない。	どの様に組織化するのか検討する必要がある。	関連する授業科目担当者間で授業内容や方法の改善について、検討	

				する。	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		専任・兼任（非常勤）教員間で学生の状況等について連携・協力体制が構築されている。	教員全体へ浸透させる。	教科担当を中心に、兼任教員との連携・協力体制を強化する。
			記載責任者 職・氏名		学科長 村山由起子

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	2	十分とは言えない。	明確な組織化。	会議などの実施。	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		分担はできているが明確ではない。	明確に定める。	なし。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		十分とは言えない。	共有化を図る。	会議などの実施。	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		十分とは言えない。	なし。	なし。	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		十分とは言えない。	共有化を図る。	非常勤講師には、定期的に会議などに参加してもらい情報共有を行う。	
			記載責任者 職・氏名		学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料

3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	4	学科長を中心に各学年担任制、各専門領域性をとっている。	特になし	特になし	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		教員組織における業務分担・責任については、校務分掌として作成している。	特になし	特になし	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		学科内においては授業科目担当教員間の連携・協力によって学生のサポート体制を構築している。	特になし	特になし	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		授業評価アンケートを組織的に行っている。	特になし	特になし	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		学科教育方針の理解や学生にかかる情報の共有などの協力体制を構築している。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 井 上 由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	2	整備している。	業務遂行を確認できていないものもある。	担当者より、学科会議内で報告させていく。	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		業務分掌を作成している。	業務分担されていない業務が出てくる場合がある。	定期的な業務分掌の見直しが必要である。	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		構築されている。	時間的制約を受けることもある。	柔軟な学事運営が求められる。	

授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		組織的な取り組みはない。	時間的な制約を受けることがある。	柔軟な学事運営が求められる。	
		コーディネーター制度を採用し、兼任教員との情報共有を進めている。	兼任教員との定期的な情報共有が必要である。	情報共有システムの構築が必要である。	
		記載責任者 職・氏名		学科長 寺本敦司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	実技で目が行き届かない場合は、教員補佐を配置	教員補佐の配置が必要な日程が明確ではない	教員補佐の配置日程の計画・調整をする	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		専任教員が一人のため業務分担ができない	業務分担ができない	教員補佐を確立する	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		構築している	なし	なし	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		取り組んでいる	なし	なし	
	専任教員（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		構築している	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 萩田のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料

3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	している	なし	なし	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		業務分担はしているが、規定による明確化はされていない	業務分担が不明確	明確にしていく	
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		している	なし	なし	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		情報共有、相談をしている	不十分な時がある	共有の時間を設ける	
	専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。		している	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名		学科長 高野徳一	

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか。	3	ほとんどの授業はしている	自分が専門外の授業をしている	専門分野を教えることができる方を探す	組織図 時間割
	教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか。		定めていない			
	学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか。		している	当学科は非常勤が多いため、頻繁に行えない	常勤を増やす	
	授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか。		情報交換を行っている	なし	継続する事	

専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか。	している	なし	継続する事	
記載責任者 職・氏名			学科長 川上聖	

## 基準4 学修成果【平均評定：3.1】

### 4-13 就職率

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	4	就職率は100%の目標設定をしている。	なし	特になし	キャリアサポートセンターのエントリーシート
	学生の就職活動を把握しているか。		就職活動は把握している。	特になし	現状で行く	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		業界からの求人は学校を通じてのもので状況は把握されている。	契約通り卒業生が待遇されているか評価が必要か。	特になし	
	関連する企業等と共に「就職説明会」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		関連する企業等と共に就職説明会を開いている。	特になし	現状でいく	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		就職先を含めデータは管理されている。	なし	今まで通り管理する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1	就職率に関する目標設	4	就職率100%を目標と	なし	なし	キャリアサポートセン

就職率の向上が図られているか。	定はあるか。		している。			ターのエントリーシート
	学生の就職活動を把握しているか。		全数把握はできていない。	卒業式後に就活を行う生徒への対応	キャリアサポートセンターの利用を勧める。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		全数把握は出来ていない。	卒業後の生徒の動向を把握しなければならない。	キャリアサポートセンターの利用を勧める。	
	関連する企業等と共に「就職説明会」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		連携できている。	なし	なし	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		把握できているものに限っては管理できている。	なし	まし	
			記載責任者 職・氏名	学科長補佐 村岡太介		

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	目標が明確化していない。	目標が明確化していない。	目標を設定する。	
	学生の就職活動を把握しているか。		卒業式前に内定を頂いた者に関しては把握できているが卒後に内定した者は把握できない。	卒後に内定した者などを把握する。	卒業後に同窓会などで調査等できないか検討。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		卒業式前に内定を頂いた者に関しては把握できているが卒後に内定した者は把握できない。	卒後に内定した者などを把握する。	卒業後に同窓会などで調査等できないか検討。	
	関連する企業等と共に「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		共催で行うことはできていないが、企業が行っているセミナーの案内をしている。	就職セミナーのなど有用性の把握	セミナー後のフォロー	
	就職率等のデータについて		動向等は把握している	全員の動向を把握でき	動向を把握し、データ	

	いて適切に管理しているか。		が全員ではない。	ていない。	化する。	
記載責任者 職・氏名				学科長 堀之内 貴一		

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	目標が明確化していない。	目標が明確にする	目標を数値化する。	卒業後の進路についてのアンケート（教務）
	学生の就職活動を把握しているか。		3年次に企業説明会を実施し、個別に相談には乗っている	学生全体の動きはまちまちであり、統一はできていない	就職活動においても学 科で統一見解をつくる	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		卒業前に内定を頂いた者に関しては把握できている。	卒業後に把握する場所を設ける。	卒業後に同窓会などで調査等できないか検討。	
	関連する企業等と共に「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		共催で行うことはできていないが、企業が行っているセミナーの案内をしている。	就職セミナーの内容の把握と比較	セミナー後のフォロー	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		動向等は把握しているが全員ではない。	卒業前・卒業後などデータをとる時期を把握	動向を把握し、データ化する。	
記載責任者 職・氏名				学科長 松波 賢		

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	4	目標設定 100%で、実績も 100%である	なし	なし	キャリアサポートセンターのエントリーシート
	学生の就職活動を把握しているか。		施設見学、面接の事前に学生より届出を提出させている	なし	なし	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		就職状況について関連団体などと情報共有を	なし	なし	
記載責任者 職・氏名				学科長 横山 伸		

握しているか。		行っている			
		関連する企業による就職説明会を学内にて開催している	なし	なし	
		就職先を学科にてデータ化して管理している	なし	なし	
記載責任者 職・氏名			学科長 永野 忍		

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	H29年度1期生の全員100%就職合格達成目標が定められている。	完成年度を迎えていないため、目標が遂行できているかの時期的な評価・比較ができない。	ほぼ適切に目標に向けた取り組みを実施しているが、今後の就職に関する対策を学科全体で協議し、検討する。	キャリアサポートセンターのエントリーシート
	学生の就職活動を把握しているか。		就職決定までのマナー講習など担当者で計画を立案。他校の就職活動時期などの情報収集に努め、学生ごとの就職活動を管理するシートなど準備している。	完成年度を迎えていないため、就職活動の時期と学生の到達レベルの整合性が現状では確認できない。会社や他校での就職説明会の開催時期が早まっているので、本校における企業説明会開催時期の検討が必要。	学科内での協議を定期的に実施し、学生の就職活動の状況について把握に努め、OT学科就職活動報告シートを使用する。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		作業療法協会や福岡県内の就職募集状況や現状の診療報酬についても情報収集をしている。国家試験合格率ともリンクした、就職内定取り消しによる、3月の就職活動状況などの	なし	なし	

		情報収集を計画的に行う。		
	関連する企業等と共に「就職説明会」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。	現在、本校の理学療法学科が計画している企業説明会に参加する計画あり。2019年度より、作業療法学科の就職に向けた説明会を実施。	完成年度を迎えていため、就職における施設との連携や募集要項の案内の送付先の連絡案内など、まだ確立できていない。	学科内での協議を定期的に実施し、現状把握に努める。
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。	学生ごとの就職活動（見学や試験など）のデータ管理ができるシステム構築あり。また、各就職施設の募集要項をデータ管理ができるシステム構築あり。	なし	なし
記載責任者 職・氏名			学科長補佐	中山 仁

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	就職率 100%を目指している。	なし	なし	キャリアサポートセンターのエントリーシート
	学生の就職活動を把握しているか。		就職担当を通して、活動の状況を会議等で定期的に報告している。	学生の動きと教員の把握の方法	学生への働きかけの強化と、ゼミ教員への報告を適宜行う。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		把握している。	なし	なし	
	関連する企業等と共に「就職説明会」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		就職説明会を関連する業界と共に実施している。	時期について検討	学生、関連する業界の意見等を踏まえ、実施する。	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		管理している。	なし	なし	

	記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子
--	------------	-----------

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	2	就職率 100%を目指している。	学生の動向を把握する。	就職セミナーなどの実施。	キャリアサポートセンターのエントリーシート
	学生の就職活動を把握しているか。		把握しているが十分とは言えない。	学生との情報共有が必要。	就職面談を行う。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		十分とは言えない。	把握できるようにする。	なし。	
	関連する企業等と共に「就職説明会」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		連携している。	日程・場所・参加数など。	入念な準備が必要。	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		管理している。	なし。	なし。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	4	就職希望者全員の就職を目指して目標を設定	特になし	特になし	キャリアサポートセンターのエントリーシート
	学生の就職活動を把握しているか。		学生の就職活動は学科会議等で定期的に報告し、全教員が把握している	特になし	特になし	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		資格との関係で、全員専門分野へ就職する。	特になし	特になし	
	関連する企業等と共に「就職説明会」を行う		社会福祉協議会や介護福祉士会等による就職	特になし	特になし	

など、就職に関し関連業界等と連携しているか。 就職率等のデータについて適切に管理しているか。		説明会の開催を学生に告知している。 求人及び内定、就職実績を記録し、把握している。			
		特になし	特になし		
		記載責任者 職・氏名		学科長 井 上 由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	4	目標設定は 100%である。	キャリアビジョンが明確ではない学生が多い。	キャリア教育の導入が必要である。	キャリアサポートセンターのエントリーシート
	学生の就職活動を把握しているか。		把握している。	就職活動に主体的に取り組めない学生がいる。	キャリア教育の導入が必要である。	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		把握している。	特になし。	特になし。	
	関連する企業等と共に「就職説明会」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		連携している。	就職説明会に関連する参加企業が少ない。	関連企業へ参加を依頼していく。	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		適切に管理している。	特なし。	特なし。	
			記載責任者 職・氏名		学科長 寺 本 敦 司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	併学者以外の学生の就職率を 100%に設定している	試験勉強等で、就職活動の行動に個人差がある	計画的な行動を促す	キャリアサポートセンターのエントリーシート
	学生の就職活動を把握		随時、学生からも報告	なし	なし	

しているか。 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。 関連する企業等と共に「就職説明会」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。 就職率等のデータについて適切に管理しているか。		相談があり把握している 把握している			
		企業説明会を開催している	なし	なし	
		管理している	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長	蓑田 のり子

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	全員就職を目指しているが、数字では設定していない	なし	なし	
	学生の就職活動を把握しているか。		面接、説明会などは報告するよう指示している	報告に漏れが生じる	授業時に必ず聞くなどの情報を吸い上げるときを決める	
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		していない	知識不足	他部署との連携をとる	
	関連する企業等と共に「就職説明会」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		している	なし	なし	
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		している	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長	高野徳一	

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	就職率に関する目標設定はあるか。	3	ある	なし		キャリアサポートセンターのエントリーシート
	学生の就職活動を把握しているか。		している	なし		
	専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか。		している	なし		
	関連する企業等と共に「就職説明会」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか。		連携はしていないが、説明会の日程などは学生に案内している	なし		
	就職率等のデータについて適切に管理しているか。		している	なし	継続すること	
				記載責任者 職・氏名	学科長 川上聖	

#### 4-14 資格・免許の取得率

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	免許取得に関する目標設定は100%である。	成績下位者の点数引き上げが必要	2年次の段階で主要科目の基礎知識の定着を図る	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		講座セミナー開催は随時行われている。	なし	なし	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		行っている。	年度により差があり安定化が必要	2年次の段階で主要科目の基礎知識の定着を図る	
	指導方法と合格実績と		合格実績と指導方法を	実力試験で合格基準に	未達成者に対して、原	

	の関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		照らし合わせ、隨時改善を行っている。	達しない者がいる。	因の分析、指導方法を修正し、学生の能力に適した方法を明確にする。	
記載責任者 職・氏名				学科長補佐 社由洋		

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	4	設定されている。	なし	なし	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		取り組まれている。	なし	なし	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		行われている。	なし	なし	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		行っている。	なし	なし	
記載責任者 職・氏名				学科長補佐	村岡太介	

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	最終学年全員卒業。国家試験合格 100%	毎年複数人の原級留置者や国家試験不合格者がいる。	対策講義や補講などの充実。	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		授業時間外や休日にセミナーを開講している。	セミナーの動員把握や内容の精査が必要。	セミナーの動員把握や内容の精査が必要。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っ		合格率は全国平均を上回っているが高いもの	国家試験合格率を上げる。	補講等の充実化。学力不足者への対応の強	

	ているか。 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		と言えない。 学力不足者へ個別対応および国家試験対策委員会の発足	国家試験の傾向と対策、分析の強化。個別対応の効率化	化。 会議にて状況の把握を随時行う。	
				記載責任者 職・氏名	学科長	堀之内 貴一

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	最終学年全員卒業。 国家試験合格 100%	毎年複数人の原級留置者や国家試験不合格者がいる。	対策講義や補講などの充実。	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		授業時間外や休日にセミナーを開講している。	セミナーの動員把握や内容の精査が必要。	セミナーの動員把握や内容の精査が必要。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		合格率は全国平均を上回っているが高いものと言えない。	国家試験合格率を上げる。	補講等の充実化。学力不足者への対応の強化。	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		学力不足者へ個別対応および国家試験対策委員会の発足	国家試験の傾向と対策、分析の強化。個別対応の効率化	会議にて状況の把握を随時行う。	
				記載責任者 職・氏名	学科長	松波 賢

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	目標設定は 100%である	なし	なし	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		最終学年の授業において資格取得に向けての内容の充実を図ってい	成績不良者への支援	実力を随時測り個別の支援体制を強化していくために面談を実施す	

		る	る	
合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		関連団体等より情報を得て、チェック項目を調べている	なし	なし
指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		常に指導方法と定期的な模擬試験の結果との整合性をチェックしており、合格率の向上を目指している。	成績不良者への支援	実力を随時測り個別の支援体制を強化していくために面談を実施する
記載責任者 職・氏名			学科長 永野 忍	

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	カリキュラムポリシーで、作業療法国家試験受験資格以外に、メンタルヘルス・マネジメント検定などの予防的作業療法にも関連する資格について、受験者は全員合格するための講義はシラバスで記載され、合格が実現できるよう学科教員及び学生と目標が統一している。	完成年度を迎えていないため、目標設定した100%合格の確認はできないが、担当者のみでの学生指導にならないよう、学科全体で開催時期の把握や試験内容の推移の変化など情報共有し、準備・取り組むことが必要。	学科内での協議を定期的に実施し、学科全体で開催時期の把握や試験内容の推移の変化など情報共有し、準備・取り組む	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		1,2年次のセミナーでの授業補完以外に、授業のない時間帯の学習支援体制が、担任を中心として実施されている。	授業時間内での学習効果が高まる支援が一番であるが、完成年度を迎えていないため、確認できないが、試験合格に向けた計画や前年度の振り返りを実施し、効果的な取り組みは継続していくことが	学科内での協議を定期的に実施し、カリキュラムポリシーを基準に、再試ゼロ計画も検討して取り組む。	

			必要。また、補完の際も中間評価など学生の到達度を評価が必要。	
合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		本校の他学科の情報や他校の実態を調査し、全国の合格率を把握している。	完成年度を迎えていないため、現在の学科の合格達成についてのデータがない。	学科内での協議を定期的に実施し、学生の比較は現在確認できないが、年度ごとの推移を確認しながら合格達成できる体制を強化する。
指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		国家試験指導教員の10年間の取り組みを参考に、経験から得た知識の情報共有に努め、過去難易度が高まる国家試験の問題に対して100%合格達成が連続してできた他校の取り組みを本校に取り入れて、カリキュラムポリシーや本校1期生100%合格達成を目標に掲げている。	完成年度を迎えていないため、実績が確認できないが、具体的な指導方法の時期や内容についての情報共有化は不完全である。	学科内での協議を定期的に実施し、指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を実施。
記載責任者 職・氏名			学科長補佐 中山 仁	

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	看護師国家試験の合格率100%を目指している。	なし	なし	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学		年間計画に従って、教員による特別講義、成	取り組みの組織化	1年次より、計画的に積み上げ方式で3年間の	

	習支援の取組はあるか。		績低迷者への個別指導など学習支援を行っている。また、業者からの特別講義及びセミナー等を年2~3回程度実施している。		学習支援を実施する。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		行っている。	なし	なし	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		学科で1回／月の模試を実施し、その結果を踏まえて成績低迷者の個別指導を実施している。	学生へ効果的な指導が実施できているか評価する必要がある。	教員による指導方法等について、学生へのアンケート調査等を実施する。	
記載責任者 職・氏名		学科長 村山由起子				

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	100%を目指している。	成績下位者の引き上げが必要。	主要三科の基礎・実践の定着を図る。	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		取組んでいる。	開催時期。	なし。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		行っている。	早めの準備が必要。	学生の能力に適した指導方法を明確にする。	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		実績がまだない。	なし。	なし。	
記載責任者 職・氏名		学科長 藤幸枝				

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科
-------------------

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	4	経過措置のため、卒業が資格要件であるが、国試全員合格を目標にしている。	留学生に対する取り組みが必要	専門的な知識と文章の読解力を高めるために補修を行う。	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		年間計画として国試対策講座、補習授業、日本語講座等を実施している。	特になし	特になし	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		国試及び学力評価試験については、詳細に分析し、全国水準との比較検討を行っている。	特になし	特になし	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		問題ごとの得点率などを分析することによって指導方法の改善を行っている。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 井上由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	4	学科内で独自の目標を設定している。	学習習慣の定着を図る方法を検討していく。	スケジュール作成による学習スタイルの確立。	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		資格試験に関する模擬試験を実施している。	卒業生に向けての情報共有が難しい。	学校のHP、SNSの活用。	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		合格実績など明確になるものとならないものがある。	資格試験によって正確な情報が発表されない。	他校のHP、SNSを参考していく。	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		試験終了後に、振り返りを実施している。次年度への指導方法の方針性を会議で行っている。	不合格者への学習支援方法の確立。	速やかな情報発信できるネットワークづくりを検討していく。	

			る。			
記載責任者 職・氏名			学科長 寺本敦司			

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上 が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	3	全員一発合格を目標としている 筆記試験の対策として補講を行い、学力向上に努めている	習得力に差がある	個別の補講内容を再検討する	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		他学科教員やトレーナーによる特別講義を行っている	講義日程の調整が困難である。	年間計画の見直し	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		民間資格のため比較していないが合格率は100%である	なし	なし	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		教員間で連携を取り、進捗状況を把握している	なし	なし	
記載責任者 職・氏名			学科長 萩田 のり子			

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上 が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	-	該当しない	なし	なし	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		該当しない	なし	なし	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		該当しない	なし	なし	

	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		該当しない	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長	高野徳一

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか。	資格・免許取得率に関する目標設定はあるか。	4	ある	資格試験の問題文が読めない	日本語力をあげる	
	特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか。		授業以外で、希望学生に対して補講を行っている	参加する学生が少ない	参加するよう促す	
	合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか。		行っていない		昨年より合格率は格段に上がっているため、継続	
	指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか。		学生の希望などを取り入れながら行っている	なし		
				記載責任者 職・氏名	学科長	川上聖

#### 4-15 卒業生の社会的評価

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握している	1	実態調査を行っていない。	就職先での状況がわからない。	実態調査の実施を検討する。	

か。 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		把握できていない。	実態が把握できない。	学校への報告を義務づける事を通知する。	
		記載責任者 職・氏名		学科長補佐	社 由 洋

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	3	臨床実習に伴い訪問数が増えた。	遠方の企業への訪問が難しい。	企業説明会などの機会に情報交換を行う。	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		全数把握は出来ていない。	卒業生の動向を把握しづらい。	同窓会セミナーを活用して情報を得る。	
			記載責任者 職・氏名		学科長補佐	村岡 太介

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	3	卒後に就職先から講師として本校にくるケースもある。	卒業生の全て把握できていない。	卒業生の進路を把握できるシステムを構築する。	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		把握できていない。	卒業生がどこに就職したかなどを全て把握できていない。	卒業生の進路を把握する。	
			記載責任者 職・氏名		学科長	堀之内 貴一

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	2	先輩卒業生の院、学校附属院に対しては行えている。	卒業生の全て把握できていない。	卒業生の進路を把握できるシステムを構築する。	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		把握できていない。	卒業生がどこに就職したかなどを全て把握できていない。	卒業生の進路を把握する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 松波 賢	

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	4	卒業生の名簿を作成し、常時連絡を取りつつ管理している。	なし	なし	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		全国ないしは地方での学会発表などは把握している	卒業生の実態把握	卒業生との情報交換を行う	
				記載責任者 職・氏名	学科長 永野 忍	

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を	—	把握していない。	完成年度を迎えていため、確認できないが、卒後の実態調査に	他校による就職先への訪問や卒後の実態調査を他校の取り組みの情	

	調査等で把握しているか。		についての把握する方法や調査する手段の取り決めがない。	報を収集し、学科内での協議を定期的に実施する。	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		把握していない。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、卒業性の学会参加登録状況などまで管理している学校があるかについての情報収集している状況。	学科内での協議を定期的に実施し、卒後勉強会や同窓会など卒業生の業績を把握できるよう取り組み、卒後も本校とのつながりが継続する体制の検討をしていく。
			記載責任者 職・氏名	学科長補佐 中山 仁	

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	3	実習病院等に就職した学生については、聞き取り調査をしている。遠方の卒業生については、学生より情報を収集している。	卒後の実態の把握方法、特に遠方の場合。	会議等で、検討	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		初めて卒業生を出したばかりなので、今後把握していく方法を検討したい。	把握方法の検討	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握している	—	卒業生を輩出していない。	なし。	なし。	

か。 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		卒業生を輩出していない。	なし。	なし。	
			記載責任者 職・氏名		学科長 藤幸枝

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	4	卒業生については、訪問や電話等によって、実態を把握している。	特になし	特になし	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		施設や本人からの連絡によって、状況を把握している。	特になし	特になし	
			記載責任者 職・氏名		学科長 井上由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	2	今年度は、遠方で就職した卒業生の医療施設を訪問する。	卒業生との情報共有システムの確立。	卒業生とのネットワーク構築を検討していく。	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		特になし。	特になし。	特になし。	
			記載責任者 職・氏名		学科長 寺本敦司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	3	全てではないが訪問するなど連絡を取っている。また、企業様から報告を受けることもある。	昨年も数名が、携帯番号の変更・引越し等で連絡が取れなくなった	定期的な連絡で状況を把握する	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		把握していない	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 萩田 のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか。	2	していない	なし	なし	
	卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		していない	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 高野 徳一	

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を	-	まだ卒業生がいない			

調査等で把握しているか。 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか。		まだ卒業生がいない				
		記載責任者 職・氏名		学科長 川上聖		

## 基準5 学生支援【平均評定：3.1】

### 5-16 就職等進路

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	4	キャリアサポートセンターの設置にて対応している。	なし。	なし。	就職説明会資料 求人票
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		随時連携が取られている。	なし。	なし。	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		アンケートを実施しているが、学内全体での共有が出来ていない。	全員が共有出来ていない。	会議等で情報共有できる場を設ける。	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		企業より、求人票を提出して頂き、学生が閲覧できる様にしている。又、求人票提出の際に、学科教員が対応し、企業の特色等を把握し、学生状況等の説明を行っている。	なし。	なし。	

就職説明会等を開催しているか。 履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。 就職に関する個別の相談に適切に応じているか。	開催されている。 セミナー・講座等は実施していない。	なし。	なし。	3年次に説明会を開催する等し、マナー・知識の向上に努める。
		生徒に対して、個別指導が実施出来ていない。		
		担任が応じている。	なし。	
記載責任者 職・氏名		学科長補佐	社由洋	

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	整備している。	なし	なし	就職説明会資料 求人票
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		整備している。	なし	なし	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		全数は共有できていない。	就職活動の時期が決まっていない。	クラスごとに集約し、1つにまとめる。	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		構築されている。	なし	なし	
	就職説明会等を開催しているか。		開催している。	なし	なし	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		開催している。	なし	なし	
	就職に関する個別の相		応じている。	なし	なし	

	談に適切に応じているか。					
記載責任者 職・氏名			学科長補佐 村岡太介			

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	学校としてキャリアサポートセンターを設置。	学生自身、国家試験合格が優先となり、就職に関しては動きが遅い。	早い段階で就職などの話をする。	
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		学校としてキャリアサポートセンターを設置。	キャリアサポートセンターと教員との連携がうまく取れていない。	連携が取れるようなシステムの構築。	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		会議にて共有をしている。	全員が共有できていない。	共有するためのシステムを構築する。	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		構築できていない。	求人票を受け取るのみになっている。	連携を取れるようなシステムを構築する。	
	就職説明会等を開催しているか。		年に1度開催し、最終学年以外も参加をしている	コミュニケーションをとる時間が少ないなど課題が多い。	説明会の前後にアンケートを実施する。	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		相談などがあれば対応しているのみとなっている。	就職指導に関する時間を取りっていない。	就職セミナーのような時間を設ける。	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		応じている。	相談があった場合のみ対応しているため、全員に対応をしているわけではない。	積極的に相談するよう斡旋する。	
記載責任者 職・氏名			学科長 堀之内 貴一			

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支 援組織体制を整備して いるか。	就職など進路支援のた めの組織体制を整備し ているか。	3	学校としてキャリアサ ポートセンターを設 置。	学生自身、国家試験合 格が優先となり、就職 に関しては動きが遅 い。	早い段階で就職などの 話をする。	
	担任教員と就職部門の 連携など学内における 連携体制を整備してい るか。		学校としてキャリアサ ポートセンターを設 置。	キャリアサポートセン ターと教員との連携が うまく取れていない。	連携が取れるようなシ ステムの構築。	
	学生の就職活動の状況 を学内で共有してい るか。		新年度に就職など学生 の動態を把握するアン ケートを実施	年一回にしか実施して いない。	学期ごとなど年度途中 で実施し把握する機会 を増やす。	
	関連する業界等と就職 に関する連携体制を構 築しているか。		構築できていない。	求人票を受け取るのみ になっている。	連携を取れるようなシ ステムを構築する。	
	就職説明会等を開催し ているか。		年に 1 度開催し、最終 学年以外も参加をして いる	コミュニケーションをと る時間が少ないなど 課題が多い。	説明会の前後にアンケ ートを実施する。	
	履歴書の書き方、面接の 受け方など、具体的な就 職指導に関するセミナ ー・講座を開講してい るか。		相談などがあれば対応 しているのみとなっ ている。	就職指導に関する時 間を取れていない。	就職セミナーのよう な時間を設ける。	
	就職に関する個別の相 談に適切に応じてい るか。		応じている。	相談があった場合のみ 対応しているため、全 員に対応をしているわ けではない。	積極的に相談するよ う斡旋する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 松波 賢	

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支 援組織体制を整備し	就職など進路支援のた めの組織体制を整備し	4	面接練習、履歴書の確 認などの支援を行って	なし	なし	就職説明会資料 求人票

援組織体制を整備しているか。	ているか。		いる		
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		就職説明会の開催にて連携をしている	なし	なし
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		学生の就職活動状況及び就職先について教務部へ情報提供を行っている	なし	なし
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		就職説明会を開催している。また説明会に参加できない企業については随時面談を行っている	なし	なし
	就職説明会等を開催しているか。		開催している	なし	なし
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		面接練習、履歴書の確認などの支援を行っている	なし	なし
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		求人票をもとに学生個別に面談を行っている	なし	なし
			記載責任者 職・氏名	学科長	永野 忍

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	カリキュラム、ディプロマポリシーを文書化している。また、進級・卒業要件を学生便覧に明示している。	仮進級判定となった学生の未履修科目に対する対応方法。	学科内での協議を定期的に実施し見解をまとめる。	就職説明会資料 求人票
	担任教員と就職部門の連携など学内における		理念に基づいたディプロマポリシーを策定し	完成年度を迎えていため、理念と教育到	ディプロマポリシーについて学科内で定期的	

	連携体制を整備しているか。	ている。	達レベルの整合性が現状では確認できない。	に情報を共有化し、理念との適合性を協議する。	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。	学生の過度の負担とならない時間割の調整と掲示を行っている。各授業科目のシラバスは開示し、学年担任・副担任制を導入し学修支援を行っている。	個別性の高い学習支援体制、方法論の構築が急務である。	学科内での協議を定期的に実施し、個別支援を試行する。	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。	国家試験対策に対応する授業科目を各年次に編成している。また、臨床実習施設は学科の臨床教育方針に同意を示し、かつ、学生に物理的負担の少ない施設の確保に努めている。	完成年度を迎えていないため、免許取得と教育到達レベルの整合性が現状では確認できない。	既設の他養成施設の指導体制などについての情報収集を行い、資格・免許取得と教育到達レベルの整備について協議を実施する。	
	就職説明会等を開催しているか。	カリキュラム、ディプロマポリシーを文書化している。また、進級・卒業要件を学生便覧に明示している。	仮進級判定となった学生の未履修科目に対する対応方法。	学科内での協議を定期的に実施し見解をまとめる。	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。	理念に基づいたディプロマポリシーを策定している。	完成年度を迎えていないため、理念と教育到達レベルの整合性が現状では確認できない。	ディプロマポリシーについて学科内で定期的に情報を共有化し、理念との適合性を協議する。	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。	学生の過度の負担とならない時間割の調整と掲示を行っている。各授業科目のシラバスは開示し、学年担任・副担任制を導入し学修支援を行っている。	個別性の高い学習支援体制、方法論の構築が急務である。	学科内での協議を定期的に実施し、個別支援を試行する。	

	記載責任者 職・氏名	学科長補佐 中山 仁
--	------------	------------

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	就職担当教員を決め、組織体制を整備している。またゼミ活動も活用している。	なし	なし	就職説明会資料 求人票
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		ゼミ担当教員と就職担当教員との連携を図っている。	なし	なし	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		教職員会議等で把握しているが、学内の全数は共有化できていない。	学内で共有化できるよう、会議等の活用	なし	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		関連する業界等と就職に関する連携体制を構築している。	学生への情報提供の在り方	情報提供ができるだけ早くから実施する。また、関連する病院等より説明をしていただくなどのご協力を頂く。	
	就職説明会等を開催しているか。		1回／年、本学科で開催している。	なし	学生のニーズを把握し、説明会に活かす。	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		業者による講座を開講している。	学生の満足度	学科内における情報の共有化と学生へのアンケート調査の実施	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		ゼミ教員及び3年担任が指導に当たっている。	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	2	十分とは言えない。	組織体制の基盤がない。	体制をつくる。	就職説明会資料 求人票
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		十分とは言えない。	連携に課題がある。	連携できるよう体制をつくる。	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		共有している。	なし。	なそ。	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		十分とは言えない。	連携に課題がある。	連携できるよう体制をつくる。	
	就職説明会等を開催しているか。		している。	なし。	なし。	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		している。	開催する時期。	時期が早いと学生のモチベーションがなく、遅いと国家試験対策で活動が送れる。	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		応じている。	なし。	なし。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	4	就職活動支援のキャリアサポートがあるが、留学生については学科主導で行っている。	留学生については個別の調整が必要	特になし	就職説明会資料 求人票
	担任教員と就職部門の		学科の就職担当者は担	特になし	特になし	

連携など学内における連携体制を整備しているか。		任など学科教員と連携してサポートにあたっている。またキャリアサポートの担当者との連携もできている。		
学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		学科会議で定期的に報告し、キャリアサポートと共有している。	特になし	特になし
関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		社会福祉協議会や介護福祉士会等の主催する説明会を活用している	特になし	特になし
就職説明会等を開催しているか。		キャリアサポートにて就職セミナーを関連する業界と連携して開催	特になし	特になし
履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		留学生が多いので定期的に個別指導を行っている。	特になし	特になし
就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		留学生が多いので、個別相談を原則としている。	特になし	特になし
		記載責任者 職・氏名	学科長 井 上 由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	4	整備している。	特になし。	特になし。	就職説明会資料 求人票
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		整備している。	特になし。	特になし。	
	学生の就職活動の状況を学内で共有している		学科会議内で共有している。	特になし。	特になし。	

か。 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。 就職説明会等を開催しているか。 履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。 就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		企業説明会を実施している。	関連する企業の参加が少ない。	企業説明会の参加を依頼する。
		開催している。	関連する企業の参加が少ない。	企業説明会の参加を依頼する。
		個別で対応している。	履歴書の書き方等の講義が必要である。	学事日程の柔軟な運営が必要となる。
		就職希望者に教員を配置している。	特になし。	特になし。
		記載責任者 職・氏名	学科長	寺本 敦司

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	キャリアサポートが設置されており、活用している	なし	なし	就職説明会資料 求人票
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		整備している	なし	なし	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		日報にて共有している	なし	なし	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		構築している	求人情報は随時学生が見れる状況ではあるが、遠方が多く近隣は届くのが遅いため昨年度を参考としている。	キャリアサポートから働きかけてもらう	
	就職説明会等を開催しているか。		開催されている	参加企業様は遠方が多く、近隣の情報が少な	キャリアサポートから働きかけてもらう	

履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。 就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		かつた		
		個別に対応している	なし	
		随時対応している	なし	
記載責任者 職・氏名		学科長	蓑田 のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	2	教員が協力して進路指導をしている	なし	なし	
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		就職部門は特に設けられていない	組織としてのサポート体制がない	サポートチームができる	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		担任と担当者が把握している	なし	なし	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		連携している担当者が別にいる	なし	なし	
	就職説明会等を開催しているか。		している	なし	なし	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		担任が行っている、組織としては特になにもない	なし	なし	
	就職に関する個別の相談に適切に応じている		担任がしている	なし	なし	

	か。					
記載責任者 職・氏名				学科長 高野徳一		

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	就職など進路支援のための組織体制を整備しているか。	3	学科の教員、非常勤の先生方に協力してもらっていた	日本語力がないため、面接を受けられない	日本語力をあげる	就職説明会資料 求人票
	担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか。		海外事業部との連携	なし	なし	
	学生の就職活動の状況を学内で共有しているか。		している	なし	なし	
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。		連携していない	なし	なし	
	就職説明会等を開催しているか。		学内ではなく、一般的な説明会に参加	学生が説明会に参加しない	参加を促す	
	履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか。		授業の中で、1年生の後期から何度も行った	日本語力がないため、理解できていない	日本語力を上げる	
	就職に関する個別の相談に適切に応じているか。		応じている	なし	なし	
記載責任者 職・氏名				学科長 川上聖		

## 5-17 中途退学への対応

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	4	要因、傾向、退学者数に 関して、報告書により 把握され、学科内での 回覧も行われている。	なし。	なし。	面談報告書 カウンセリング集計
	指導経過記録を適切に保存しているか。		適切に保存されてい る。	なし。	なし。	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		随時面談を行い、また 必要な際には、校長、 学科長、他教員同席の 元、面談を実施してい る。	なし。	なし。	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		心理カウンセラーによる 相談対応が行われて いる。また、学習面では 担任を中心に、成績状 況応じて、個別に指導 を行っている。	心理面で問題を抱えて いる生徒への対応方法	心理カウンセラーとの 連携を図る。	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	4	把握している。	なし	なし	面談報告書 カウンセリング集計
	指導経過記録を適切に保存しているか。		生徒ごとに保存してい る。	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		連携した体制がある。	なし	なし	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別		カウンセリングの専門 員を配置するなど充実	なし	なし	

	指導体制はあるか。		している。			
記載責任者 職・氏名			学科長補佐 村岡太介			

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	把握している。	経済面での退学者が多い。	学校独自でサポートできないかを検討する。	面談記録
	指導経過記録を適切に保存しているか。		指導経過を作成し、面談ごとに記録するようしている。	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		担任制を用い、相談しやすい環境を整え、学校としてカウンセラーにも来ていただいている。	カウンセラーが在住していることの啓蒙活動を行う	カウンセラーが在住していることの啓蒙活動を行う	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		何かあれば担任を通して、配慮可能なことは配慮している。	本人が言い出すまで気づかないことが多い。	何かあればすぐに相談するように促す。	
			記載責任者 職・氏名		学科長 堀之内 貴一	

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	把握している。	経済面での退学者が多い。	学校独自でサポートできないかを検討する。	
	指導経過記録を適切に保存しているか。		指導経過を作成し、面談ごとに記録するようしている。	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		カウンセラーが在住していることの啓蒙活動を実施。	カウンセラーとの連携は乏しい。	積極的に担任からも相談できるシステムを構築する。	
	退学に結びつきやすい、		何かあれば担任を通して	成績不良に関してはそ	話しやすい環境の整備	

	心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		し、配慮可能なことは配慮している。	の都度面談を行っているが、事前の把握が必要		
				記載責任者 職・氏名	学科長 松 波 賢	

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	把握している	なし	なし	面談報告書 カウンセリング集計
	指導経過記録を適切に保存しているか。		指導事由が生じた時点で書面作成し、保存している	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		試験実施後等、学生全員において担任による面談を行っている	事由発生前の面談の実施	年間計画への面談時期の設定	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		担任やスクールカウンセラーによる面談を行っている	担任とスクールカウンセラーの連携	担任とスクールカウンセラーの情報共有	
				記載責任者 職・氏名	学科長 永野 忍	

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	教育カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを、学科教員が常に意識し、1年次教育と2年次の教育内容の他社による評価や修正指導など体制あり。学校本部からの教員・授業評価の内容から、各々	完成年度を迎えていないため、確認できないが、現在中途退学者なし。中途退学を予測できた学生あり。 実習の影響による学生の心理的反応のデータ	学科内での協議を定期的に実施。	面談報告書 カウンセリング集計

		次年度に向けた教育内容の再修正を実施。 学生ごとの細やかな学生生活状況を記録するファイル作成。遅刻や欠席の内容なども含め、経過を記録し、担任が管理している。	なし。 完成年度を迎えていないため、確認できないが、担任が管理していることで、情報共有化ができないことあり。また学生個人の情報にもなるため、情報共有するべきか判断に悩むことあり。	学科内での協議を定期的に実施し、
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。	各々教員での授業状況について、随時担任へ報告する体制はある。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、連携が不十分に感じられる課題あり。 教員の判断によって行われる学生への面談の把握ができない事。	学科内での協議を定期的に実施。
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。	学生からの相談体制は、担任を中心として実施しているが、必ず教員は2名以上で相談対応することや、記録を残すことを指導している。心理面および学習面に対しては、担任以外誰でも相談に乗ることを学生に周知できるよう、入学時のオリエンテーション時だけでなく、随時呼び掛けている。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、相談窓口の掲示ができていない。心理面のフォローについて、できる教員が限られている。	学科内での協議を定期的に実施。H30年度6月より、女性教員補充あり。
記載責任者 職・氏名			学科長補佐 中山 仁	

看護学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	把握している。	中途退学の要因である成績や本来の希望入学ではない学生に対する対応	定期的な面接の実施、学習指導の充実を図る。	面談報告書 カウンセリング集計
	指導経過記録を適切に保存しているか。		保存している。	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		教務部、学生部等との連携を取っている。	定期的な意見交換の場の共有化を図る。	教務部、学生部との連携を深めるため、定期的な会議の実施。	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		定期的に面談を実施している。	1年次より、計画的に学習支援をする必要がある。	面談の時期・回数・方法など、計画的に実施する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 村山由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	把握している。	なし。	なし。	面談報告書 カウンセリング集計
	指導経過記録を適切に保存しているか。		書面作成している。	統一性をはかる。	情報共有。	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		担任による面談を隨時行っている。	面談後の情報共有が必要。	情報共有できる場を設ける。	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		カウンセラーによる面談。	定期的に行う。	カウンセリングの周知。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料

5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	4	退学者については、個別に状況等を記録し、退学者数についても把握している。	特になし	特になし	面談報告書 カウンセリング集計
	指導経過記録を適切に保存しているか。		指導経過についても記録し、保存している。	特になし	特になし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		定期的に個別面談を実施し、会議で情報を共有して取り組みを検討している。	特になし	特になし	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		学生相談室にて専門の相談員が配置されている。学習については専任教員が個別に対応している。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 井 上 由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	4	把握している。	特になし。	特になし。	面談報告書 カウンセリング集計
	指導経過記録を適切に保存しているか。		保存している。	特になし。	特になし。	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		年2回の面談を実施している。	情報共有の徹底。	情報開示の方法を検討する。	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		担任以外の教員との面談を実施している。	情報共有の徹底。	情報開示の方法を検討する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 寺 本 敦 司	

整体セラピスト学科

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	把握している	学費・生活費のためのアルバイトによって、生活時間の乱れがある	目的・目標の明確化	面談報告書 カウンセリング集計
	指導経過記録を適切に保存しているか。		日報にて報告している	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		連携体制はある	なし	なし	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		定期の個別面談以外に個別面談を実施している 併学生の場合は、その担任との情報共有を行っている	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名		学科長 萩田 のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	している	なし	なし	
	指導経過記録を適切に保存しているか。		個別面談の記録をしている	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		相談シートによる問題の共有化	なし	なし	
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		特になし	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名		学科長 高野徳一	

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか。	3	している	なし	なし	面談報告書 カウンセリング集計
	指導経過記録を適切に保存しているか。		している	なし	なし	
	中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか。		ない	情報を持っていたとしても共有がない		
	退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか。		定期的に面談を行い、話を聞くようにしている	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 川上聖	

## 5-18 学生相談

### 5-18-1

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	4	専任カウンセラーを設置している。	なし。	なし。	カウンセリング集計
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		行っている。	なし。	なし。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		文書掲示と口頭にて学生に告知している。	なし。	なし。	
	相談記録を適切に保存		プライバシー保護に留	なし。	なし。	

しているか。 関連医療機関等との連携はあるか。		意し、適切に行ってい る。			
		必要と認められる場合 は紹介している。	なし。	なし。	
		記載責任者 職・氏名		学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制 を整備しているか。	専任カウンセラーの配 置等相談に関する組織 体制を整備しているか。	4	整備している。	なし	なし	カウンセリング集計
	相談室の設置など相談 に関する環境整備を行 っているか。		環境整備されている。	なし	なし	
	学生に対して、相談室の 利用に関する案内を行 っているか。		行っている。	なし	なし	
	相談記録を適切に保存 しているか。		保存している。	なし	なし	
	関連医療機関等との連 携はあるか。		しっかり連携してい る。	なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長補佐 村岡太介		

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制 を整備しているか。	専任カウンセラーの配 置等相談に関する組織 体制を整備しているか。	3	学校としてカウンセラ ーに来ていただいている。	常在しているわけでは ないため、すぐに対応 できない場合がある。	カウンセラーに常在し て頂く。	
	相談室の設置など相談 に関する環境整備を行 っているか。		学校としてカウンセラ ーに来ていただいている。	常在しているわけでは ないため、すぐに対応 できない場合がある。	カウンセラーに常在し て頂く。	
	学生に対して、相談室の 利用に関する案内を行 っているか。		掲示だけではなく オリエンテーションに	カウンセリングの実施 状況を学科で把握して	カウンセリングの実施 状況を学科で把握	

	っているか。		アナウンスを実施。	いない。	
	相談記録を適切に保存しているか。		カウンセラーとの相談内容など教員は記録、把握していない。	カウンセリングの実施状況を学科で把握していない。	
	関連医療機関等との連携はあるか。		連携していない。	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長	堀之内 貴一

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	3	学校としてカウンセラーに来ていただいている。	常在しているわけではないため、すぐに対応できない場合がある。	カウンセラーに常在して頂く。	
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		学校としてカウンセラーに来ていただいている。	常在しているわけではないため、すぐに対応できない場合がある。	カウンセラーに常在して頂く。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		掲示だけではなくオリエンテーションにアナウンスを実施。	カウンセリングの実施状況を学科で把握していない。	カウンセリングの実施状況を学科で把握	
	相談記録を適切に保存しているか。		カウンセラーとの相談内容など教員は記録、把握していない。	カウンセリングの実施状況を学科で把握していない。	カウンセリングの実施状況を学科で把握	
	関連医療機関等との連携はあるか。		連携していない。	なし	連携できるよう計画する。	
		記載責任者 職・氏名		学科長	松波 賢	

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	3	学校専任でのカウンセラーの配置を行っている	なし	なし	カウンセリング集計
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行		個室による面談を行っている	なし	なし	

5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	ているか。 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		学内掲示を行っている。また学科担任からの案内も行っている	なし	なし
	相談記録を適切に保存しているか。		面談記録は学科外にて保管している	記録内容の把握	担任とスクールカウンセラーの情報共有
	関連医療機関等との連携はあるか。		学生の主治医の診断書をもって情報共有を行っている	なし	なし
			記載責任者 職・氏名		学科長 永野忍

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	2	精神・心理の専門分野の教員が1名。H30年度6月より2名配置。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、相談を受けた後の本部への報告・相談など、組織的な対応は未経験、確立していない。	学科内での協議を定期的に実施。	カウンセリング集計
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		保健室。図書室。クラス教室。他教室。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、個人を守るように隔離した環境で行うことや、2名体制で実施する体制を徹底することが必要。	学科内での協議を定期的に実施。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		なし。	完成年度を迎えていないため、確認できない	学科内での協議を定期的に実施。	
	相談記録を適切に保存しているか。		学生ごとのファイルで管理。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、現在までは、詳細に記録を実施できている。学生個人ファイルも鍵付き棚で管理保管	学科内での協議を定期的に実施。担任への管理指導を徹底する。	

			実施。		
	関連医療機関等との連携はあるか。		精神・心理の専門分野の教員が1名。H30年度6月より2名配置。実習前の心理カウンセリングを対象者全員へ計画。	完成年度を迎えていないため、確認できないが、相談を受けた後の本部への報告・相談など、組織的な対応は未経験、確立していない。	学科内での協議を定期的に実施。
		記載責任者 職・氏名		学科長補佐 中山 仁	

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	3	専任カウンセラーを設置している。	タイムリーな対応	カウンセラーの増員	カウンセリング集計
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		面談室等を使用し、行っている。	面談室等確実を確実に使用できる	面談室等の増室	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		掲示板等を利用し、行っている。	なし	なし	
	相談記録を適切に保存しているか。		学科で保存している。	なし	なし	
	関連医療機関等との連携はあるか。		学生の状況によっては、連携している。	必要な情報の共有化と対応	なし	
			記載責任者 職・氏名		学科長 村山 由起子	

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料

5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	2	専任カウンセラーの配置。	常在していないため緊急の対応ができない。	常在のカウンセラーの配置。	カウンセリング集計
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		個室がない。	個室の設置。	なし。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		他の部屋で対応している。	相談室の設置。	なし。	
	相談記録を適切に保存しているか。		している。	なし。	なし。	
	関連医療機関等との連携はあるか。		連携していない。	なし。	なし。	
			記載責任者 職・氏名		学科長 藤幸枝	

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	3	学生相談室が設置されカウンセラーの配置があるが、留学生については学科で対応している。	留学生に対応できる方法を検討する必要がある。	メールなどを活用して利用を促す。予約の仕方など情報提供をする。	カウンセリング集計
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		学校には相談室が設置されている。	日常的に使用できる相談室が足りない。	特になし	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		相談室利用については入学時オリエンテーション、学生生活ガイドブック等によっても行っている。	特になし	特になし	
	相談記録を適切に保存しているか。		相談記録は適切に保管されている。	特になし	特になし	
	関連医療機関等との連携はあるか。		学生の相談内容によっては医療機関との連携がある。	特になし	特になし	

	記載責任者 職・氏名	学科長 井 上 由紀子
--	------------	-------------

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	2	学校専任カウンセラーを配置している。	なし。	なし。	カウンセリング集計
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		個室での面談を実施している。	相談室の確保が必要である。	相談室の設置。	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		掲示板にて案内を掲示。学生との面談で情報提供している。	学生がどんなものかを理解しきれていない。	存在自体の告知を再検討する。	
	相談記録を適切に保存しているか。		保存している。	個人情報の問題もあり、学科教員は相談内容を把握できない。	情報共有の方法を検討する。	
	関連医療機関等との連携はあるか。		個人情報の問題もあり、学科との情報共有はない。	個人情報の問題もあり、学科教員は相談内容を把握できない。	情報共有の方法を検討する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 寺 本 敦 司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	3	整備されている	なし	なし	カウンセリング集計
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		整備されている	なし	なし	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		行っている	なし	なし	
	相談記録を適切に保存		個別相談の記録は保存	なし	なし	

しているか。 関連医療機関等との連携はあるか。	している				
	連携はある	なし	なし		
			記載責任者 職・氏名	学科長 萩田 のり子	

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	3	整備されていない、担任が担っている	対応人数が足りないことがある	教員間の連携	
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		していない	なし	なし	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		該当しない	なし	なし	
	相談記録を適切に保存しているか。		細かい相談など、できていなことがある	細かい相談などできないことがある	きちんと記録を取り保存する	
	関連医療機関等との連携はあるか。		該当しない	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名	学科長 高野徳一		

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか。	3	学校カウンセラーを配置	なし	なし	カウンセリング集計
	相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか。		行っていない	外国語に対応できるカウンセラーが必要	カウンセラーの設置	
	学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか。		当校にはないことは知っており、本校にあることは通知済み	なし	なし	

相談記録を適切に保存しているか。 関連医療機関等との連携はあるか。		している	なし	なし	
		なし	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名	学科長 川上聖	

5-18-2

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科（留学生が在学する学科のみ）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	3	学科教員と海外事業部で対応している。	相談についての情報共有が課題である。	対応について検討する。	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		学科を中心に海外事業部と連携して在籍管理や生活指導を行っている。	学生の増加に伴って体制の整備が必要。	検討して問題を洗い出す。	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		入学後から介護福祉士への意識づけを行い、学習のモチベーションとしている。就職については学生の希望に沿って選択できるように支援している。	日常的な状況の把握を適切に実施する必要がある。	入国管理局、相談機関の活用に加え研修会への参加を促進する。	
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		指導記録は適切に保存されており、必要に応じて報告している。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 井上由紀子	

日本語学科（留学生が在学する学科のみ）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2	留学生の相談等に対応	2	担任が担っている	担任だけでは対応でき	教員間の協力	

留学生に対する相談体制を整備しているか。	する担当の教職員を配置しているか。			ないときがある 記録に残す	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		行っている	生活指導の体制が明確でない	体制を明確にしていく
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		行っている	なし	なし
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		報告シート等で報告している、	なし	なし
			記載責任者 職・氏名		学科長 高野徳一

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科（留学生が在学する学科のみ）						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか。	2	している	なし	きちんと対応できる人が必要	
	留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか。		している	なし	なし	
	留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか。		授業だけでなく、授業外でも行っている	なし	なし	
	留学生に関する指導記録を適切に保存しているか。		している	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名		学科長 川上聖	

## 5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	学校独自の奨学金制度を整備しているか。	4	学校法人国際学園奨学金貸与制度の導入本年度5名が貸与	特になし	現行制度維持	
	学費の減免、分割納付制度を整備しているか。		学力特待入、スポーツ特待入試を実地約15名が特典対象者となった	特になし	現行制度維持	
	大規模災害発生時および家計急変時に対応する支援制度を整備しているか。		学校独自では行っていないが、日本学生支援機構制度の斡旋する	特になし	特になし	
	全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に情報提供しているか。		本年度より開始の給付型奨学金の情報提供。	特になし	特になし	
	公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか。		給付型奨学金、実践教育訓練給付金などの公的支援制度に随時対応、相談に応じている。	特になし	特になし	
	全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか。		適切に把握している。	特になし	特になし	
			記載責任者 職・氏名		学生部長 大森廣喜	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか。	学校保健計画を定めているか。	4	検討している		特になし	
	学校医を選任しているか。		選任している。	特になし	特になし	
	保健室を整備し専門職員を配置しているか。		看護学科教員が随時対応している。	特になし	特になし	
	定期健康診断を実施し		毎年本校附属クリニック	特になし	特になし	

	て記録を保存しているか。		クで全学生の健康診断を行って記録は保存している。			
	有所見者の再健診について適切に対応しているか。		再検診該当者に対しては再診の通知文書を送付し最終結果報告を受けている。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	学生部長	大森廣喜

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-19-3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか。	遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか。	4	不動産会社共立メンテナンスと提携して2ヶ所の学生寮を提供している。現時点で希望者全員が入寮となっている。	特になし	特になし	
	学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか。		業者と学生で契約書を交わしている。	特になし	特になし	
	学生寮の数、利用人員、充足状況は明確になっているか。		入学時に入寮予定者を把握し業者と連絡を取りながら対応に当たっている。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	学生部長	大森廣喜

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか。	クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか。	4	把握している。	特になし。	特になし。	
	大会への引率、補助金の交付など具体的な支援を行っているか。		引率および補助金交付を行っている。	特になし。	引き続き支援を行う。	

	大会成績など実績を把握しているか。		把握している。	特になし。	特になし。	
記載責任者 職・氏名				教務部長 味村吉浩		

## 5-19 学生生活

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経済的支援体制として、学費の延納や分割後納制度、学校法人奨学金制度を設けている。健康診断は年1回実施しているが、学校保健計画を策定する必要がある。学生寮は入寮希望者に対して戸数が不足しているが、年度によって入寮希望者数に変動があるため、入寮できない学生に対しては賃貸物件の紹介にとどめる。	馬借校舎においては急病や事故に対して看護学科教員（看護師）が対応に当たっている。東篠崎校舎では附属診療所勤務の医師または看護師が対応に当たっている。片野校舎では学科教員が対応に当たっている。

記載責任者 職・氏名

教務部長 味村吉浩

## 5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか。	保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っていているか。	4	未成年者が在学する学科を主に開催している。	未成年者が在学する学科でも開催していないところがある。	開催するよう学科に提案する。	個別面談記録 学籍簿 動態表
	個別面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか。		保護者からの求めに応じて随時面談を実施して、記録を保存している。	全ての学生の保護者に個別面談等を行う場所および時間がない。	保護者が個別面談の機会を希望するか調査を行う。	
	学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護		適宜、担任から保護者等に対して連絡を行つ	特になし。	特になし。	

者と適切に連携しているか。		ている。			
緊急時の連絡体制を確保しているか。		確保している。	特になし。	特になし。	
記載責任者 職・氏名			教務部長	味 村 吉 浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者会等の開催は、一部の学科においてしか行っていない。学生が未成年者の場合は、学業や心理面等の問題解決のために担任が適宜保護者に連絡を行い、連携を密になるよう心がけている。	

記載責任者 職・氏名	教務部長 味 村 吉 浩
------------	--------------

## 5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか。	同窓会組織を組織し、活動状況を把握しているか。	3	同窓会を組織して、活動に直接関わっている。	特になし。	特になし。	
	再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか。		相談の申し出がある都度対応している。	特になし。	特になし。	
	卒後のキャリアアップのための講座等を開講しているか。		開講している。	特になし。	特になし。	
	卒後の研究活動に対する支援を行っているか。		行っていない。	卒後の研究活動の把握に至っていない。	支援を要する研究活動について報告を受ける体制の整備。	

	記載責任者 職・氏名	教務部長 味 村 吉 浩
--	------------	--------------

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-21-2 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか。	関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか。	1	行っていない。	特になし。	特になし。	
	学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか。		行っていない。	特になし。	検討課題とする。	
				記載責任者 職・氏名	教務部長	味 村 吉 浩

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか。	社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか。	3	既修得単位認定制度について入学前に告知して、規程に基づいて認定している。	特になし。	特になし。	学則 学生便覧 既修得単位認定制度のしおり
	社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか。		特に社会人学生に配慮した履修制度は設けていない。	社会人学生も、社会人ではない学生と同じ条件で履修を課している。	特に社会人学生に配慮した履修制度を設ける予定はない。	
	図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか。		特に社会人学生に配慮した利用制度を設けていない。	特になし。	特になし。	
	社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別面談を実施しているか。		社会人学生に限らず、就職等の進路相談は隨時実施している。	特になし。	特になし。	
				記載責任者 職・氏名	教務部長	味 村 吉 浩

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同窓会には学校教職員も携わって運営しているが、活動そのものがやや活発ではない。また、学科によっては社会人学生が在学しているが、社会人であることを理由に特に配慮を行わず、社会人ではない学生と同じ環境のもとで就学させている。	

記載責任者 職・氏名

教務部長 味村吉浩

## 基準6 教育環境【平均評定：3.1】

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育施設・設備・教育用具等は法令に基づいて整備を図っている。学外実習・インターンシップ等については学科によっては整備されていないところも見受けられる。	校外実習・インターンシップ等について、実施要綱やマニュアルを整備する必要がある。	

記載責任者 職・氏名

教務部長 味村吉浩

### 6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教	施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実してい	3	柔道整復師学科他国家資格養正学校としての法規上の教室、実習室	各学科の教育備品購入要望に対しては隨時検討の上検討して教育備	各学科の依頼を一括で補充するのは厳しいので順次対応していく。	

育用具を整備しているか。	るか。		等教育に支障がないよう整備され、法規にも適合している。	品の充実を図っている	
	図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか。		図書室専任職員を配置して、蔵書の貸出を行っている。法令で定められている各学科の教育雑誌は全て充足している	学生数の増加に伴い座席数の確保が必要となっている。	特になし
	図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか。		学生・教員の要望に応じて蔵書の購入している。	特になし	特になし
	学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか。		3F～8F の各フロアに学生懇談室を設置している。	特になし	特になし
	施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか。		エレベーターを 2 基設置、全館バリアフリー化になっており、1 階に障害者トイレを設置。	特になし	特になし
	手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか。		全館のトイレ洗面所には手動式洗浄器具（液体石鹼）を設置、清掃作業は業者に委託毎日行っている	特になし	特になし
	卒業生に施設・設備を提供しているか。		卒業生に対しては図書館等の設備利用提供している	特になし	特になし
	施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか。		施設管理署を設置し、必要に応じて工事業者に委託対応している	特になし	特になし
	施設の改築・改修、設備の更新の計画を策定し、適切に実施しているか。		必要に応じて随時対応している	本年度全館の照明器具を LED に変更した。	特になし
		記載責任者 職・氏名		学生部長	大森廣喜

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育上必要な施設、設備は、教育活動に支障をきたさない様に対応できる体制を整えている。また、必要に応じて教職員及び委託業者と協議の上改善を諮つていく。	建物の経年劣化による修繕が発生してくるが、現状の体制であれば随時対応していくと思われる。

記載責任者 職・氏名

学生部長 大森廣喜

## 6-23 学外実習・インターンシップ等

柔道整復学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	4	2年次に九州歯科大学の協力の元、解剖学実習を実施している。又、臨床実習として学外施設での研修を実施している。	臨床実習施設の指導者がまだ指導に慣れていない。	定期的に連絡を取り、臨床実習の質を高めていく。	臨床実習ガイドライン
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		実習を行う前に、実施要項を基に、学生指導を行っている。	マニュアルなどの修正が必要な場合がある。	修正が必要な場合、早期に対応を行う。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		教員研修やセミナー等へ参加している。	全員が参加できていない。	内容等を学科内で共有する。	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		解剖学実習に関して、研修先へレポートを提出し、評価基準としている。臨床実習の成績は明確にしている。	成績基準実習施設が適切に把握するまで少し時間がかかる。	修正が必要な場合、早期に対応を行う。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保して		2年次に九州歯科大学の協力の元、解剖学実習を実施している。又、	指導者の先生が連絡しやすい環境の確保。	修正が必要な場合、早期に対応を行う。	

	いるか。		臨床実習として学外施設での研修を実施している。			
	学外実習の教育効果について確認しているか。		解剖学実習に関して、研修先へレポートを提出している。臨床実習では成績を出した後、施設へフィードバックを行う。	なし。	なし。	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学園祭や北九州マラソンなど積極的に参加させている。	なし。	なし。	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		同窓会の案内を行っている。	卒業生向けのセミナー等が実施されていない。	卒業生が学内行事に参加できる様にしていく。.	
				記載責任者 職・氏名	学科長補佐 社由洋	

スポーツ柔整学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	4	臨床実習において明確にしている。	なし	なし	臨種実習教育要領 ガイドライン
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		実習指導者会議や実習事前教育で適切に整備運用されている。	なし	なし	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		行っている。	なし	なし	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		ガイドラインに従い準備している。	まだ見えていない。	なし	
	学外実習について実習		確保できている。	まだ見えていない。	なし	

機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。 学外実習の教育効果について確認しているか。 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。				
		まだ未知数である。	これから上がってくるであろう。	なし
		参画させている。	夜間部の学生は昼間に行われる行事への参加が難しい。	なし
		就職先までは行き届いていない。	就職先の企業まで目が行き届いていない。	企業説明会の場などで案内を出す。
		記載責任者 職・氏名 学科長補佐 村岡太介		

鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	2	位置づけは明確にできていない	学校単位の研修はあるが、学科まで落とし込めていない。	学科へ落とし込む場を作る。	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		インターンシップは行われている。	学校単位で動いており、マニュアルを学科で把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		職業実践専門課程を活用し、企業にきて頂く回数を増やし、内容を改定した	かかわって頂いている企業が少なく、偏りがある	業界のニーズを探る	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		把握していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		把握していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	

	学外実習の教育効果について確認しているか。		確認していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学園祭や部活動など積極的に参加させている	学生が積極的に参加しているが、まだ教員主体になっている。	学生が主体となる委員を発足	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		企業説明会などの案内はして、学科教員も参加している。	卒業生の就職先を全て把握しておらず、なおかつ行事案内をしていない。	卒業生の就職先の把握および案内をだす。	
			記載責任者 職・氏名		学科長 堀之内 貴一	

スポーツ鍼灸学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	2	位置づけは明確にできていない	学校単位の研修はあるが、学科まで落とし込めていない。	学科へ落とし込む場を作る。	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		インターンシップは行われている。	学校単位で動いており、マニュアルを学科で把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		職業実践専門課程を活用し、企業にきて頂く回数を増やし、内容を改定した	かかわって頂いている企業が少なく、偏りがある	業界のニーズを探る	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		把握していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		把握していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		確認していない	学科が現状を把握していない	学科へ落とし込む場を作る。	

				作る。	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学園祭や部活動など積極的に参加させている	学生が積極的に参加しているが、まだ教員主体になっている。	学生が主体となる委員を発足
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		企業説明会などの案内はして、学科教員も参加している。	卒業生の就職先を全て把握しておらず、なおかつ行事案内をしていない。	卒業生の就職先の把握および案内をだす。
			記載責任者 職・氏名		学科長 松波 賢

理学療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	4	臨床実習指導要綱に明記している。	なし	なし	臨床実習指導要綱
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		臨床実習指導要綱に明記している。	なし	なし	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		臨床実習指導者との打ち合わせ会議の前に研修的位置づけで意見交換など行っている	なし	なし	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		評価基準を明確にして学生や指導者へ伝えている。また臨床実習指導要綱に明記している。	なし	なし	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		臨床実習指導者との打ち合わせ会議を臨床実習の時期に合わせて実施している。	なし	なし	
	学外実習の教育効果に		臨床実習後に会議を実	なし	なし	

について確認しているか。 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。	施し、確認している。 学生主体にて学園祭に参画させている。 行事の案内を学科単独ではなく、学校から行っている	なし	なし	
		なし	なし	
		なし	なし	
		記載責任者 職・氏名		学科長 永野 忍

作業療法学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	4	臨床実習指導要綱に資格取得に必要な学外実習を明確にしている。	特になし。	特になし。	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		臨床実習指導要綱に資格取得に必要な学外実習を明確にしている。 ※教育水準に合わせ、臨床実習指導要綱の見直しを検討。	特になし。	特になし。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		臨床教育者会議の中で臨床状況の把握や報告会・研修会を実施する予定。 会議前に、臨床教育者や企業説明会参加者との打ち合わせが必要。 理学療法学科との共有できることと、独立した形で実施することの打ち合わせを検討。	特になし。	特になし。	
	学外実習について、成績評価基準を明確にして		成績評価基準を学生や臨床教育者へ伝え、臨	特になし。	特になし。	

	いるか。			
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。	床実習指導要綱にて明確にしている。 ※定期的に教育水準に合わせ、臨床実習前後の評価を、理学療法学科と検討。		
	学外実習の教育効果について確認しているか。	臨床実習教育者会議の実施及び学科教員が臨床実習施設へ訪問し、学生の情報共有など確保している。	特になし。	特になし。
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。	臨床実習後の症例報告会の内容も踏まえ、学科会議を実施。実習課題を教員間で情報共有し、確認している。	特になし。	特になし。
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。	学園祭や学外実習にて、学生主体の実習を実施している。 学生主体であるが、担任を中心とした学校行事の参加計画や学年間交流の促進を補助。	特になし。	特になし。
		基本的に保護者や臨床実習教育者などへの郵送を中心とした学校行事の案内を実施。他に本校の HP での全体的な報告と不定期に OT 学科 Facebook にて情報を開示。本校の HP や OT 学科 Facebook の利用状況や効果が不明瞭。 卒業生への案内は、現在最終学年が 3 年で、	特になし。	特になし。

			貴実施と案内 の方法は未定である。			
記載責任者 職・氏名			学科長補佐 中山 仁			

看護学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	3	明確にしている。	なし	なし	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		実習要綱・マニュアル等を整備し、適切に運用している。	内容について、毎年、検討する必要がある。	学科会議、領域会議等を通して、協議する。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		病院、施設等より関連した研修について、ご案内を頂き、できるだけ、参加・出席するようしている。	なし	なし	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		実習評価表を作成し、基準を明確にしている。	実習先との連携を図りながら、基準を理解して頂く。	学科会議、実習指導者会議等で協議、決定する。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		確保している。	なし	なし	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		確認している。	なし	なし	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		3年生は年間ほぼ実習であるが、1・2年生は学外実習がない時期の行事には、積極的に参加させている。	全ての行事に対して、全員参加させることがむずかしい。	行事の目的等を十分に説明する。また、時間的な調整を行う。	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職		行事の案内をしている。	なし	なし	

	先に行事の案内をしているか。					
記載責任者 職・氏名				学科長 村山由起子		

歯科衛生学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	2	十分とは言えない。	学外実習などの指導要綱の見直しが必要。	学内で討議し、学外への周知。	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		十分とは言えない。	マニュアル通りの運用。	なし。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		実施していない。	研修などで実習における統一を図る。	研修できる場を設ける。	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		明確にしているが、十分とは言えない。	見直しが必要。	なし。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		指導者会議を行っている。	なし。	なし。	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		実習中の途中訪問で確認している。	なし。	なし。	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		参画させている。	消極的な学生の参加。	主体的に取組めるようする。	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		十分とは言えない。	事前に文書にて周知する。	文書化する。	
記載責任者 職・氏名				学科長 藤幸枝		

生涯スポーツトレーナー介護福祉学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	4	学外実習は教育計画に基づいて実施しており、外部の関係機関と連携して体制を整備している。	特になし	特になし	介護福祉士養成施設指定規則第5条
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		実習要綱、指導要項、実習の手引きなどを整備して運用している。	特になし	特になし	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		特になし	特になし	特になし	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		学外実習は指定実習であるので、成績評価基準を明確にしている。	特になし	特になし	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		学外実習の実習機関の指導者との連絡協議は個別に実施している。	特になし	特になし	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		巡回指導記録や実習指導報告書等により効果を確認している。	特になし	特になし	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学園祭等学生の行事については学生委員会を中心に積極的に参画させている。	学外実習が多いので、参加できないことが多い。	特になし	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		実習報告会等に案内をしている。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 井上由紀子	

アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	2	学外実習等は、資格取得に必要なものとして位置づけられている。	学外実習の重要性をいかに伝えるか。	資格取得に必要なものであることを理解させる。	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		学外実習については、必要な実施要項、マニュアルを作成している。	マニュアルの精査をしていくことが必要である。	学外実習終了後に見直していくシステムの構築。	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		関連業界との連携が取れていない。	企業との連携を深めていくことが必要である。	関連業界へ就職した学生との交流を図る。	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		評価基準としては、出席点、レポート作成で評価している。	実技に関する評価基準の作成が必要である。	学外実習の成果を確認する方法を検討する。	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		主に本学科教員が担当しており、業界と連絡・協議がなされている。	業界との連携をいかに図るかが課題である。	関連業界へ就職した学生との交流を図る。	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		具体的な教育効果については、確認しきっていない。	レポート作成能力の向上と実技に関する評価基準作成が必要である。	文章作成の講義実施、実技試験などの実施を予定している。	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		学校行事の運営等には積極的に参画させている。	学生によって実習への温度差を感じる。	学生らに対し、多くの気づきを提供するカリキュラム作成が必要である。	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		学校の HP にて情報を開示している。	業界との連携をいかに図るかが必要である。	まずは、卒業生との交流を深められるよう、SNS 等の活用を検討する。	
				記載責任者 職・氏名	学科長 寺 本 敦 司	

整体セラピスト学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	4	明確である	最善であるか確認する	振り返りアンケートから次回の改善策を検討する	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		適切に運用している	最善であるか確認する	振り返りアンケートから次回の改善策を検討する	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		実施していない	なし	なし	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		明確にしている	なし	なし	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		確保している	なし	なし	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		振り返りアンケートで集約した情報を共有している	なし	なし	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		年間計画により日程が明確な学園祭・各種イベントに積極的に参加している	なし	なし	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		行っていない	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長	蓑田 のり子

日本語学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	学外実習等について、異議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。	—	該当なし	なし	なし	
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。		該当なし	なし	なし	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。		該当なし	なし	なし	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。		該当なし	なし	なし	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。		該当なし	なし	なし	
	学外実習の教育効果について確認しているか。		該当なし	なし	なし	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。		該当なし	なし	なし	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。		該当なし	なし	なし	
				記載責任者 職・氏名	学科長 高野徳一	

ホスピタリティ・コンシェルジュ学科						
小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-23-1	学外実習等について、異	2	している	なし	なし	

学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	議や教育課程上の位置づけを明確にしているか。				
	学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか。	している。実習要綱は実習先に配布	なし	なし	
	関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか。	実施していないが、研修などには参加	なし	なし	
	学外実習について、成績評価基準を明確にしているか。	している	なし	なし	
	学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか。	している	なし	継続する事	
	学外実習の教育効果について確認しているか。	している	なし	継続する事	
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。	している	なし	なし	
	卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか。	していない。まだ卒業生はおらず、保護者も国外のため	なし	なし	
			記載責任者 職・氏名	学科長 川上聖	

## 6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用し	学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動の	4	小倉北消防署に消防計画書及び防災訓練マニュアル書を提出してい	特になし	特になし	

ているか。	マニュアルを整備しているか。	る				
	施設・設備の耐震化に対応しているか。		現状では行っていない	特になし	特になし	
	消防設備等の整備および保守点検は法令に基づきを行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか。 防災（消防）訓練を定期的に実施し、記録を保存しているか。		消防設備の整備、点検は指定業者に業務委託、必要に応じて修理改善を行っている。毎年2回消防訓練を実地、防火訓練計画書を小倉北消防署に提出し、書類は記録、保存している。	特になし	特になし	
	備品の転倒防止など安全管理を徹底しているか。		不具合箇所の洗い出し、順次改善していく	特になし	特になし	
	教職員・学生に防災研修・教育を行っているか。		教職員、学生参加した。消防訓練を通して防災意識の向上を図る。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	学生部長	大森廣喜

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。	学校安全計画を策定しているか。	3	警備会社と業務委託、校舎内外に防犯カメラを設置、所轄警察署とも連絡を密にして不測の事態に対応できる体制を整えていく。事故対応マニュアルを作成して適切な対応に対応している。	玄関ドアが2か所あり、比較的容易に入りやすい構造になっている。来客と不審者の区別が必要となってくる。	特になし	
	学生の生命と学校財産を加害者から守るために防犯体制を整備し、適切に運用しているか。					
	授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか。					
	薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に					

対応しているか。		実習先での安全管理、指導については学科ごとに対応している。	特になし	特になし	
			記載責任者 職・氏名		
		学生部長 大森廣喜			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
消防計画書を作成し年2回の消防訓練を実地している。	特になし

記載責任者 職・氏名	学生部長 大森廣喜
------------	-----------

## 基準7 学生の募集と受入れ【平均評定：3.5】

総括と課題	今後の改善策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集については、規制に基づいた活動を行っている。入学選考についてはほとんどの教職員が関わって、学科別応募者・入学者数などのデータ管理も行っている。		

### 7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか。	高等学校における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか。	3	ガイダンス業者からの参加依頼を中心に十分に行っている	ガイダンス本数が多い	効果的にガイダンスを選別して参加して情報提供に努める	

高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか。 教員または保護者向けの学校案内等を作成しているか。		高校訪問の実施の際行っている	回り切れていない高校がある	予定通りの高校訪問を実施すること	
		保護者向けの専用パンフレットは作成していない	保護者用パンフ無し	今後作成予定	
		記載責任者 職・氏名		広報部長	村 方 浩 典

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
7-25-2 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか。	入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか。	4	行っている。	特になし	特になし	
	専修学校団体が行う自主規制に則した募集活動を行っているか。		行っている	特になし	特になし	
	志願者等からの入学相談に適切に対応しているか。		行っている	出願希望者に対しての個別対応を 100%クリア できていない	個別に来る出願の確率の高い方を最優先に対応していく	
	学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に分かりやすく紹介しているか。		行っている	昨年度不足部分があった	今年度は不足分の改善を図っている	
	広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか。		行っている	特になし	特になし	
	体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫などを行っているか。		行っている	特になし	資料請求者やガイダンス参加者に対して行っている DM 発送を継続していく	
	志願者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取り入れているか。		行っている	今年度変更	新規推薦入試システムを今年度導入し常に改善を図っている	

	記載責任者 職・氏名	広報部長 村方浩典
--	------------	-----------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今年度は昨年度よりも実績分析を詳細に行い、営業部隊各自に明確な目標を持たせた。この3年間で一番厳しい状況に昨年度なったことにより、今年度が勝負の年ととらえ工夫を凝らし、数字という実績を出していく。	今迄の総合パンフレットに加え、学校見学会・出張授業用パンフレット。社会人用のパンフレットを作成、留年生・聴講生など、今までにない説明資料を作成して高校生・社会人共に学生獲得に動けるように特色を出したリーフレットを作成。

記載責任者 職・氏名	広報部長 村方浩典
------------	-----------

7-26 入学選考
-----------

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。	入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか。	4	学則および入試規程において定めている。	特になし	特になし	学則 入試規程 入試判定会議資料 学生募集要項
	入学選考等は、規程に基づき適切に運用しているか。		規程に基づく運用を行っている。	特になし	特になし	
	入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか。		入試判定会議において公平に合否判定を行っている。	特になし	特になし	
					記載責任者 職・氏名	教務部長 味村吉浩

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に	学科ごとの合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管	2	学科単位の合格および辞退についてデータ化できていない。	特に問題視していないかった。	学科単位の合格および辞退についてのデータ管理を行う。	入学願書 入試判定会議資料 学生募集要項

活用しているか。	理しているか。		学科単位の入学者の傾向は把握しているが、授業方法の検討などに反映できていない。	入学者の傾向を授業方法の検討などに反映できていない。	各学科に対して入学者の傾向を報告し、授業方法の検討に反映させる。	
	学科別応募者・入学者数の予測数値を算出しているか。		算出している。	学科によっては予測数値と実際の数値との間でかい離が見られる。	定期的な予測数値の見直し。	
	財務等の計画数値と応募者数の予測値との整合性を図っているか。		図っている。	特になし	特になし	
			記載責任者 職・氏名		教務部長 味村吉浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考は選考基準に基づいて適切に行っているが、学科ごとの合格率および辞退率をデータ化して、それを授業方法の検討などに反映させる必要がある。	特になし

記載責任者 職・氏名	教務部長 味村吉浩
------------	-----------

## 7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか。	学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか。	4	明確にしている。	特になし	特になし	学生募集要項
	学納金の水準を把握しているか。		把握している。	特になし	特になし	
	学納金等徴収する金額はすべて明示している		学生募集要項において明示している。	特になし	特になし	

	か。					
記載責任者 職・氏名				事務局長	西田真紀	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
7-27-2 入学辞退者に対し授業料等について適切な取扱いを行っているか。	文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取り扱っているか。	4	文部科学省通知に沿った対応を行っている。授業料返還に関しては、募集要項に記載している。	特になし	特になし	学生募集要項
記載責任者 職・氏名				学生部長	大森廣喜	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金は適切に算定し、文部科学省通知の趣旨に基づいた取扱いを行っている。	特になし

記載責任者 職・氏名	学生部長 大森廣喜
------------	-----------

## 基準8 財務【平均評定：3.0】

8-28 財務基盤
-----------

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
8-28-1 学校および法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか。	応募者数・入学者数および定員充足率の推移を把握しているか。	3	把握している。	特になし。	特になし。	予算書 決算書
	収入と支出のバランスがとれているか。		バランスが取れている。	入学生獲得。	募集の方法を工夫し、学生獲得につなげる。	
	貸借対照表の翌年度繰越消費収入超過額がマ		立てている。	特になし。	特になし。	

	イナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか。				
	消費収支計算書の当年度消費収入超過額がマイナスになっている場合、その原因を正確に把握しているか。	把握している。	特になし。	特になし。	
	設備投資が過大になっていないか。	なっていない。	特になし。	特になし。	
	負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか。	なっている。	特になし。	特になし。	
記載責任者 職・氏名				事務局長 西田真紀	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
8-28-2 学校および法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか。	最近3年間の収支状況(消費収支・資金収支)による財務分析を行っているか。	3	行っている。	特になし。	特になし。	予算書 決算書
	最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか。		行っている。	特になし。	特になし。	
	最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか。		策定している。	特になし。	特になし。	
	キャッシュフローの状況を示すデータはあるか。		ある。	特になし。	特になし。	
	教育研究比率、人件費比率は適切な数値になっているか。		なっている。	特になし。	特になし。	

コスト管理を適切に行っているか。 収支の状況について自己評価しているか。 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか。		行っている。	特になし。	特になし。	
		している。	特になし。	特になし。	
		策定している。	特になし。	特になし。	
		記載責任者 職・氏名		事務局長 西田真紀	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各施設団体等に提出する必要があるものが多く、収支計算書や償還計画など、一年中扱っていることが多い。財政基盤として、学生の確保が最重要課題だと認識している。	

記載責任者 職・氏名	事務局長 西田真紀
------------	-----------

## 8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか。	予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか。	3	整合性を図っている。	特になし。	特になし。	事業計画書 予算書
	予算の編成過程および決算過程は明確になっているか。		明確になっている。	特になし。	特になし。	
		記載責任者 職・氏名		事務局長 西田真紀		

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
8-29-2	予算の執行計画を策定	3	策定している。	特になし。	特になし。	予算書

予算および計画に基づき適正に執行管理を行っているか。	しているか。			補正予算書
	予算と決算に大きなかい離を生じていないか。			
	予算過程が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか。			
	予算規程、経理規程を整備しているか。			
	予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか。			
		記載責任者 職・氏名		事務局長 西田真紀

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会を通して予算案の策定発表、また補正予算案等も発表し確認を試みている。	

記載責任者 職・氏名	事務局長 西田真紀
------------	-----------

## 8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
8-30-1 私立学校法および寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか。	私立学校法および寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか。	3	実施している。	特になし。	特になし。	監事監査報告書
	監査報告書を作成し理事会等に報告しているか。		報告している。	特になし。	特になし。	
	監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか。		実施している。	特になし。	特になし。	

	監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか。		対応している。	特になし。	特くなし。	
				記載責任者 職・氏名	事務局長 西田真紀	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
監事のほかに会計士も足を運び、定期的に状況報告と確認を行っている。	

記載責任者 職・氏名	事務局長 西田真紀
------------	-----------

### 8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	財務公開規程を整備し、適切に運用しているか。	3	運用している。	特になし。	特になし。	予算書
	公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか。		作成している。	特になし。	特になし。	
	財務公開の実績を記録しているか。		記録している。	特になし。	特になし。	
	公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか。		出来る限り取り組んでいる。	特になし。	特になし。	
				記載責任者 職・氏名	事務局長 西田真紀	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今後も、情報公開について積極的な公開を心がけるとともに、適正な情報を公開することを前提に作成していく。	

## 基準9 法令等の遵守【平均評定：3.6】

### 9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	関係法令および設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等を行っているか。	4	関係法令に基づいて、必要な諸届等を行っている。	特になし	特になし	ハラスメントマニュアル
	学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか。		適宜必要となる規則・規程を策定整備し、これに基づいた運用を行っている。	特になし	特になし	
	セクシャルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか。		ハラスメントマニュアルを策定し、これに基づいた運用を行っている。	特になし	特なし	
	教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談窓口を設置しているか。		教務部に窓口を設置し、適宜対応に当たっている。	特になし	特になし	
	教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか。		教員に対しては教職員会議の場で、学生に対しては学科にて適宜研修・教育を行っている。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	事務局長 西田真紀	

中項目総括

特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

法令遵守を第一義に、規則・規程についても必要に応じて順次、整備を図っている。規則・規程についてはさらに整備を図る必要がある。	記載責任者 職・氏名	事務局長 西田真紀
--	------------	-----------

### 9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか。	個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか。	3	規程に基づく運用を行っている。	特になし	特になし	個人情報保護方針 研修会資料
	大量の個人データを蓄積した電磁気録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか。		規程に基づく運用を行っている。	学校サーバーに対する不正アクセスの危険。	不正アクセス防止のさらなる強化。	
	学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏洩等の防止策を講じているか。		サイト管理者において情報漏洩防止策を講じている。	特になし	特になし	
	教職員・学生に個人情報管理に関する啓発および教育を実施しているか。		教職員には研修の機会を設けるとともに、学生には都度、啓発および教育を行っている。	教職員および学生の個人情報管理にかかる意識の希薄。	個人情報管理に関する啓発および教育の徹底。	
				記載責任者 職・氏名	教務部長 味村吉浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
-------	--------------------

個人情報の保護については規定に基づいて徹底した管理を行っているが、複数サーバーの存在が不正アクセスの侵入口を増やしている原因となっている。不正アクセス防止のためのセキュリティは講じているが、進化する不正アクセスに対するさらなるセキュリティ強化が必要と考えられる。	経年劣化したサーバーの交換を必要とする。
---	----------------------

記載責任者 職・氏名

教務部長 味村吉浩

### 9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか。	実施に関し、学則および規程等を整備し実施しているか。	3	自己評価の実施にかかる規程等が整備されていない。	自己評価実施にかかる規程等の整備が不十分である。	自己評価実施にかかる規程等の整備。	自己評価規程 評価スケジュール 自己評価報告書 結果公表資料
	実施にかかる組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取り組んでいるか。		教務部主導のもと、毎年度定期的に全学で取り組んでいる。	各部署における自己評価基準に若干の温度差が見受けられる。	各部署において自己評価実施担当者の選任および研修等の実施による評価基準の統一化。	
	評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか。		評価結果をもとに改善に取り組んでいる。	評価結果の全てに改善策が講じられていない。	評価結果に対する改善担当委員会の設置。	
				記載責任者 職・氏名	教務部長 味村吉浩	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
9-34-2 自己評価結果を公表しているか。	評価結果を報告書に取りまとめているか。	4	報告書を作成している。	特になし	特になし	自己点検・自己評価報告書
	評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか。		ホームページ上に公表している。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	教務部長 味村吉浩	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか。	実施に関し、学則および規程等を整備し実施しているか。	3	学校関係者評価の実施にかかる規程等が整備されていない。	学校関係者評価の実施にかかる規程等の整備が不十分である。	学校関係者評価の実施にかかる規程等の整備。	学校関係者評価委員会議事録 結果公表資料
	実施のための組織体制を整備しているか。		学校関係者評価委員会を組織している。	特になし	特になし	
	設置課程・学科の関連業界等から委員を適切に選任しているか。		選任している。	各設置学科に関連した業界等から委員が選任されていない。	各設置学科に関連した業界等からの委員選任。	
	評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか。		評価結果をもとに改善に取り組んでいる。	評価結果の全てに改善が見出せていない。	評価結果に対する改善担当委員会の設置。	
				記載責任者 職・氏名	教務部長 味村吉浩	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか。	評価結果を報告書に取りまとめているか。	4	報告書を作成している。	特になし	特になし	学校関係者評価委員会議事録 学校関係者評価報告書
	評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか。		ホームページ上に公表している。	特になし	特になし	
			記載責任者 職・氏名	教務部長	味村吉浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己評価および学校関係者評価はともに実施しているが、これらを実施する上の規程等の整備が必要。また、各評価に対する改善策を策定し、それを有効に実行するための体制づくりを強化する必要がある。	特になし

記載責任者 職・氏名	教務部長 味村吉浩
------------	-----------

## 9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っていているか。	学校の概要、教育内容、教職員等の教育情報を積極的に公開しているか。	4	学校ホームページや学校案内を用いて公開している。	特になし	特になし	学校ホームページ 学校案内
	学生、保護者、関連業界等広く社会に公開しているか。		学校ホームページや学校案内を用いて公開している。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	教務部長 味村吉浩	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の概要、教育内容、教職員の教育情報については学校ホームページ等を用いて広く公開できている。今後、学校ホームページ等の閲覧者の側に立って、教育情報についてより理解しやすいものへと改良することを心がけている。	特になし

記載責任者 職・氏名 教務部長 味村吉浩

## 基準 10 社会貢献・地域貢献【平均評定：3.3】

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか。	2	当該規程は整備されていない。	当該規程の整備を図る必要がある。	当該規程の整備。	学校施設貸与規程
	企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか。		実績がない。	教育プログラムの開発や共同研究にかかる連携要請がない。	該当しない。	

国の機関からの委託研究および雇用促進事業について積極的に受託しているか。 学校施設・設備等を地域・関連業界・卒業生等に開放しているか。 高等学校等が行うキャリア教育の実施に教員を派遣するなど積極的に協力・支援しているか。 学校の実習施設を活用するなど高等学校の職業教育の実施に協力・支援しているか。 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか。 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか。 教職員・学生に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための研修・教育に取り組んでいるか。		受託していない。	雇用促進事業について本校の事情に合わせて受託している。	引き続き同様の取扱いとする。
		関連業界から施設使用にかかる申出を受けて貸与している。	特になし	特になし
		高等学校からの要請に基づき教員を派遣している。	特になし	特になし
		高等学校からの申出を受託するかたちで職業教育の実施に協力・支援している。	特になし	特になし
		地域の受講者等を対象とした講座は開講していない。	特になし	特になし
		市の清掃活動等に参加するなどして環境問題の解決にかかわっている。	特になし	特になし
		特に取り組んでいない。	教職員や学生が、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための研修や教育に取り組む必要がある。	今後の検討課題とする。
		記載責任者 職・氏名		教務部長 味村吉浩

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか。	海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか。	4	定めている。	特になし	特になし	
	海外の教育機関と教職		今後、人事交流を図る	特になし	特になし	

	員の人事交流・共同研究等を行っているか。		予定である。			
	海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか。		海外教育機関学生の研修受入れにより交流を図っている。	特になし	特になし	
	留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか。		留学生を対象とした学修成果、教育目標の明確化、体系的な教育課程の編成に取り組んでいる。	特になし	特になし	
	留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか。		学校ホームページによる公開、海外事業部による広報活動によって情報発信に努めている。	特になし	特になし	
				記載責任者 職・氏名	教務部長	味村吉浩

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参考資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。	ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか。	4	奨励している。	活動日が授業日や授業時間帯と重なり、就学に支障を来しかねないこと。	検討中	
	活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか。		窓口を設置しているが、組織的な支援体制とはなっていない。	ボランティア支援体制の組織化。	検討中	
	ボランティア活動実績を把握しているか。		把握している。	特になし	特になし	
	ボランティアの活動実績を評価しているか。		卒業年次に評価して、表彰を行うなどの措置を講じている。	特になし	特になし	
	ボランティアの活動結果を学内で共有しているか。		教職員レベルの情報共有にとどまっている。	結果報告の機会を設ける必要がある。	検討中	

	記載責任者 職・氏名	教務部長 味村吉浩
--	------------	-----------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校施設・設備等の開放については学校安全の観点からこれに至っていないが、申請を経て審査の上、随時貸与のかたちを取っている。留学生数の増加に伴って、受入れ体制も整備されてきている。ボランティア活動については学生のみならず教職員も参加するようにしているが、授業日や授業時間帯と重なることによって公認欠席扱いとはするものの、学生の学修成果に不安を残す。	

記載責任者 職・氏名	教務部長 味村吉浩
------------	-----------